

金沢大学

FD 活動報告書



令和2年度

<目次>

1	令和2年度 全学FD活動概要	1
1-1	本学FD活動の概要	2
1-2	各部局等からの回答をもとにした点検	4
1-3	FD委員会の活動	10
1-4	<ピックアップ>特色あるFD活動	15
1-5	国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門の活動	26
2	各部局等のFD活動	31
2-1	照会事項1 令和元年度に提案された予定・課題の達成度	32
2-2	照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況	40
2-3	照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況	47
2-4	照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況	64
2-5	照会事項5 FD研修会の実施状況	71
2-6	照会事項6 コース・専攻単位での教育改善活動	80
2-7	照会事項7 自己評価及び総評	83
3	各部局等のBSD活動	89
3-1	照会事項1 BSD研修会の実施状況	90
3-2	照会事項2 その他の活動状況	96
3-3	照会事項3 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定	97
4	資料編	99
4-1	金沢大学FD委員会規程	100
4-2	金沢大学におけるFD活動指針	102
4-3	金沢大学履修規程	104
4-4	金沢大学シラバス様式	108
4-5	令和2年度金沢大学FD委員会名簿	109

1 令和2年度 全学FD活動概要

1-1 本学 FD 活動の概要

本学では平成 20 年度、「金沢大学 FD 委員会規程」（後掲：4 資料編）に基づき、教育企画会議に全学の FD 委員会を設置した。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、

授業の内容・方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取り組みをいう。（同指針第 2）

FD 委員会は、平成 20 年度に「金沢大学における FD 活動指針」（後掲：4 資料編）をまとめた。同指針は FD 活動が継続的かつ実質的に改善するために、FD 活動をいわゆる PDCA サイクルの中に位置づけている（図 1）。その一環として FD 委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき、当該年度の全学における FD 活動に関する報告書（「年度報告書」）を作成することとした。この規定に基づいて作成したものが本報告書である。

本報告書では、各部局等が令和 2 年度の活動に対して行った自己評価のみならず、令和 3 年度における改善に向けての取り組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し、FD 活動を相互に促進しあうことで、本学全体の FD 活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。



図 1 金沢大学における FD 活動

なお、同指針の特徴の1つとして、授業の内容や方法の改善に関することにとどまらず、学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等、学生支援に関する活動をもFD活動の中を含めている点が挙げられる。この点に関連して、本学では教育企画会議学生生活委員会を中心に「学生支援・学習支援」に資する目的で『教職員必携 学生サポートガイドブック』を毎年度、見直しを行い、アカンサスポータルに掲載するとともに、関係教職員にエッセンシャル版パンフレットを配布している（図2）。その内容は学生相談、留学生支援、就職支援、障がい学生支援等、多岐にわたっており、教職員は本冊子を有効に活用することにより、学生が抱えた問題を早期に解決し、すべての学生が「充実した学生生活」が送れるように、学生支援に努めている。

また、教員のFD活動支援や学生支援の分野で、職員の果たすべき役割はより一層大きくなりつつある。こうした現状に鑑み、職員のSD（スタッフ・ディベロップメント）及びBSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）活動についての指針を盛り込んでいることも同指針の特徴の1つである。

ところで、同指針では、国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門がFD及びBSD活動に対して必要な支援を行うことを定めている（第8）。国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門が令和2年度に行ったFD・BSD活動及び他部局等のFD・BSD活動に対して行った支援の内容については1-5 国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門の活動においてのべる。なお、本学は令和2年度限りで国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門を発展的に解消し、令和3年度から新たに教学マネジメントセンターを設置した。今後は、教学マネジメントセンターが全学のFD・SD活動の支援を行う。



図2 教職員必携学生サポートガイドブック

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

本学は、金沢大学学則第3条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う」と定めている。また、「金沢大学におけるFD活動指針」(以下、FD活動指針)においては、研修及び研究につけ加えて、「改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げて」いくとしている。

これらの指針を受けて、第3期中期計画では、「教育研究の質保証及び適切な大学運営を行うために第2期中期目標期間に構築した自己点検評価を中心とする PDCA サイクルをより効果的に機能させる」ために、「本学の諸活動に関する自己点検・評価について、実施方法等を不断に見直すこと」が目標とされた。平成30年度計画においては、「平成28年度に見直した実施方法や評価項目に基づき、基本データ分析による自己点検・評価を実施する」としている。全学及び各部局は、これら学則、「FD活動指針」、第3期中期計画等に基づきFD活動を推進している。

計画・実践・評価・改善のサイクルとは、学類、研究科ごとに、①学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、卒業・修了時における到達目標を明確にする、②ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを体系化し、各授業科目の役割をマップ及びツリーという形で可視化する、③各授業科目のカリキュラム上の位置付け、教育内容・方法・到達基準をシラバスで学生に伝達する、④授業科目及び教育プログラムの達成状況を、成績分布、授業評価アンケート、学修ポートフォリオ又は卒業・修了者アンケートで確認する、⑤それらの分析結果に基づいて、各授業科目の教育内容・方法の改善、教育プログラムの改善を行い、部局におけるカリキュラム(マップ及びツリー)を再検証するというものである。令和2年度は、各部局のFD活動を確認するため、事実関係確認のため「シラバス改善のための取組みの実施状況」、「授業方法改善のための取組み等の実施状況」、「成績評価基準等の作成・検証状況」、「FD研修会の実施状況(本学主催)」、「コース・専攻単位での教育改善活動」の5件、自己点検・評価活動に関して「令和元年度に提案された予定・課題の達成度」、「令和2年度FD活動の自己評価及び総評」の2件の事項について照会した。以下に、その回答を点検した結果について述べる。

照会事項1 令和元年度に提案された予定・課題の達成度

多くの学類・研究科において、コロナ禍の困難な状況の中、各種アンケート結果を踏まえた教育改善については努力と工夫の上で予定・課題を達成したとの自己評価となっている。また、オンライン授業対応FDについても行われている。それらに加えて以下にあげるような特徴的な取り組みもなされている。

- 法学類：オンライン授業に際してアシスタントの学生の意見を取り入れる

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

- 経済学類：アンケート結果だけでなく学生との懇談会も開催するなど学生の声をより深く聞く取り組みを実施
- 学校教育学類：卒業者アンケート回収率 100%を達成，なるためノートの電子化を検討
- 国際学類：授業評価アンケート全体として高評価の中，「予習・復習の実質化」に取り組む
- 数物科学類，数物科学専攻：基礎的科目の理解度向上につなげるための TA/CLA 採用計画検討
- 機械工学類，機械科学専攻，フロンティア工学類，電子情報通信学類（電子情報学類），電子情報科学専攻：オンライン授業等のティップス（好事例）の収集及び 3 学類での共有
- 地球社会基盤学類（環境デザイン学類），環境デザイン学専攻：学生の志望選択に役立つように初学者ゼミ I における民間企業及び研究機関で働く卒業者等からの社会的知識の提供
- 医学類：「科目別カリキュラム評価」を実施し，評価内容を授業担当者にフィードバック
- 薬学類・創薬科学類，創薬科学専攻，薬学専攻：「早期ラボ・ローテーション」の AO 入試入学者以外の学生への波及効果確認及び独自奨学金制度運用
- 保健学類，保健学専攻：学類 FD 研修会を通してのオンラインによるハイブリッド講義等に関する情報を提供及びアフターコロナを見据えた新たな講義形式等の提案
- 先進予防医学研究科：シラバスの点検を行い，主にアクティブ・ラーニングや英語対応に関する記載内容の改善
- 教職実践研究科：ラウンドテーブル方式での FD 研修会実施

照会事項2 シラバス改善のための取り組みの実施状況

シラバス記載に関しては，基本的な部分の点検サイクルを前提として，令和2年度は，アクティブ・ラーニング（AL）関連及びスーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）に関して教育の国際化の進捗状況を確認する項目に絞って部局からの回答を求めた。

AL 関連では，「AL に関する記載を周知した」，「AL の記載状況をチェックした」，「AL に関する記載を個別に依頼した」の3項目について質問した。「AL に関する記載を周知した」については，回答対象となった26部局全てで周知されているとの回答を得た。「AL の記載状況をチェックした」についても，一部の部局を除きチェックしているとの回答を得た。「AL に関する記載を個別に依頼した」については，実施していない部局もあるが，これは，既に周知され，チェックした上で未対応のシラバスがない場合は，個別依頼は行わないので，当然の結果であると考えられる。なお，AL に関するシラバス記述の回答を

通して、学校教育学類、機械工学類及び法学研究科等においては、責任者を中心に組織的にシラバスチェックを行っていることが確認出来た。

SGU 関連では、「英文での入力を周知した」、「英文での入力状況をチェックした」、「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」を設問として設けた。「英文での入力を周知した」については全ての部局で周知されているとの回答であった。「英文での入力状況をチェックした」においても、一部の部局を除いてチェックが行われているとの回答を得ている。「英文での入力を個別に依頼した」では6割強の17部局から、「英語化率の入力状況をチェックした」では4割弱の11部局から実施しているとの回答であった。個別依頼はAL関連と同様に周知、チェック体制があれば回答が少なくとも大きな問題ではないと考えられるが、英語化率については個別授業毎に把握することが難しいため、回答しづらい設問となっている可能性もうかがえる。

照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

授業方法改善のための取組み等の実施状況においては、設問が大きく、授業評価アンケート関連と授業参観関連に分かれている。授業評価アンケート関連では、「授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法の改善のために、どのように活用したか」に焦点が当てられている。

授業評価アンケートでは、26部局全てから「担当者個人に返却した」との回答があった。「結果を公表した」16部局、「科目担当者間で共有した」14部局と過半数を超えているが、「学類（又は研究科、専攻等）で分析を行った」及び「教務委員（長）・学類（又は研究科、専攻等）長が確認を行った」は13部局と半数となっている。一方で、「課題のある科目に注意を行った」は3部局、「前年度よりも結果が改善した」は2部局となっており、授業評価アンケートの結果活用には課題が残っていることがわかる。その他として、自由記述内容を分類して公表した（国際基幹教育院GS教育部門）、複数教員担当科目において教員ごとにアンケートを設定（法学研究科）など特徴的な活動も見られた。

卒業・修了者アンケートについては、対象部局が22部局となり、「学類（又は研究科、専攻等）で分析を行った」14部局、「教務委員（長）・学類（又は研究科、専攻等）長が確認を行った」は全ての研究科を含む16部局、「学類（又は研究科、専攻等）で課題を共有した」も全ての研究科を含む15部局、「結果を公表した」は理工学域の全ての学類を含む11部局となっている。「具体的な改善につなげた」は4部局と少数であり、卒業・修了者アンケート結果活用について課題が残っていることが明らかになった。

授業参観関連については、対象部局は27部局であり、大学教育再生加速プログラム（AP事業）で導入された「授業カタログ」についても設問に含めている。その「授業カタログを活用した」は19部局、「モデル授業について実施した」は9部局、「ローテーションで実施した（5名未満）」1部局、「すべての教員の授業を公開している」は4部局であった。「ローテーションで実施した（5名以上）」部局は0となっており、授業参観については非常に低調であることがわかる。その他、LMSコース上で授業資料及び情報交換（人文学類、経済学類）、LMSコース上での授業動画の相互参観（機械工学類、電子情報通信学類）、オンライン授業の相互視聴（生命理工学類）などコロナ禍での工夫を行っている

取り組みも見られた。

令和3年度に向けた組織的取組の計画では、多くの学類・研究科で、令和2年度のコロナ禍での遠隔授業における課題（学習成果向上度合、成績評価方法など）への対応を組織的FDとして対応するとされている。また、授業評価アンケート、卒業・修了者アンケートについても、回収率向上やアンケート結果を教育改善に活用することも計画としてあげられている。そのほかとしては、地球社会基盤学類での授業参観、医薬保健学総合研究科における外国人留学生向けオンラインコンテンツの充実などが特徴的な取組としてあげられる。

照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

成績評価基準等の作成・検証状況については、「成績評価基準等の作成・検証」と「成績評価方法の検証」について聞いている。「成績評価基準等の作成・検証」に関しては、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」、「シラバスへの記載状況を確認した」、「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもループリックの記載科目が増加した」についての確認が行われている。また、「成績評価方法の検証」においては、「成績評価分布を調査した」、「成績評価分布を学類（又は研究科、専攻等）内で共有した」、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」についての確認が行われている。

「成績評価基準等の作成・検証」において、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」では、全ての部局で依頼が行われている。「シラバスへの記載状況を確認した」についてもごく一部を除いて確認作業が行われているとの回答であった。「課題のある成績評価基準について改善を求めた」は7割強の19の部局で実施されているが、「前年度よりもループリックの記載科目が増加した」では6割強の16部局（全学類）でチェックがついており、ループリックの普及が少しずつ進んでいることがうかがえる。全体としては、FD委員会等を通して組織的に成績評価基準・方法の改善に取り組んでいることが確認出来た。

「成績評価方法の検証」に関して、「成績評価分布を調査した」は、7割強の19の部局で実施されており、かつ、実施したところのうち12部局では、「成績評価分布を学類（又は研究科、専攻等）内で共有した」にもチェックがつけられている。このことから、成績分布調査とその結果の共有を行うという活動が一体となる流れが出てきていると考えられる。一方で、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」をチェックしたのは7部局にとどまっており、教育活動の根幹に関わる成績評価への組織的関与の難しさがうかがえる。同様に、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」ところも5部局と一部にとどまっており、成績評価分布調査、共有、指導、改善という流れの構築にはまだまだ時間がかかっている状況であると考えられる。一方で、「授業カタログの作成・公開を通じて成績評価の基準や分布、問題点を検証した」（物質化学類）、「科目別カリキュラム評価」において、医学教育分野別評価基準に基づいた学生の評価方法について、評価の有用性、学修成果と教育方法との整合性等について評価を実施している」（医学類）など、独自の取り組みも見られた。

照会事項5 FD研修会の実施状況

一部を除きほぼ全ての部局で何らかのFD研修会が実施されていることは確認出来る。

新型コロナ禍の影響もあり、「遠隔授業」、「オンライン授業」をキーワードとして、例えば、遠隔授業サポートチーム（人文学類）、遠隔での実習、実技、実験授業実践報告（学校教育学類）、オンライン講義テクニックの LMS 上での共有（機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類）などの実践事例報告が行われ、情報共有につながっている。また、アクティブ・ラーニング、カリキュラムポリシー関連、学生支援関連（医学類）、研究指導及び授業評価アンケート結果について（人間社会環境研究科）、弁護士による授業参観について（法学研究科）、公開授業の省察（教職実践研究科）、アカデミックライティングスキル（外国語教育部門）など、新型コロナ禍でありながら、従来からの教育課題にも取り組んでいる部局も見られた。これらの内容の一部は、全学での教育実践報告会で紹介されているが、まだまだ一部の紹介にとどまっている。今後、これらの FD 研修会が全学へ開放されると、教育に関する TIPS の共有が広がり、教育改善のさらなる拡がりにつながるものと考えられる。

照会事項6 コース・専攻単位での教育改善活動

「コース・専攻単位での教育改善活動」については、FD 研修会以外の活動として質問が設定されているが、具体的には、「教員間で教育についての定期的な意見交換」、「学生からの意見聴取」、「授業評価の経年変化分析」、「自己点検の実施」、「教育賞等教育業績の積極的な評価」についての確認が行われている。「教員間で教育についての定期的な意見交換」を実施していると回答した部局が一番多く、続いて「学生からの意見聴取」となっている。「自己点検の実施」については、本 FD 活動報告書作成にあたっての回答がそれに該当する部分もあるが、部局独自の活動として実施されているところはわずか4部局であり、残りの2つ「授業評価の経年変化分析」、「教育賞等教育業績の積極的な評価」にいたっては、わずか2部局で実施されているに過ぎない。このような状況の中、経済学類での学生と教員の懇談会をオンラインで実施、学校教育学類での実習、実技、実験授業担当者からの実践報告会開催、物質化学類での講義の進め方についての定期的な意見交換会開催、電子情報通信学類での学類内 FD 用 LMS コース活用、地球社会基盤学類での卒業・修了者アンケート結果に基づく優秀教員表彰制度、医学類におけるフォーカス・グループ・インタビュー実施、保健学類での授業評価アンケートに基づく優秀教員表彰制度など、それぞれ独自に教育改善につながる取り組みが行われていることも確認出来た。

今後の課題

各部局の自己評価からは、CLA の導入、教務委員会と FD 委員会の協働、シラバスチェック、遠隔授業対応、授業評価方法、授業評価アンケート回収率向上及びその結果活用、授業での学生理解度の把握、遠隔授業のノウハウを活用した反転授業促進などが課題であることが指摘されている。これらの課題を指摘していると言うことは、本学において整備されているシラバス、LMS、授業評価アンケート、遠隔授業用ツールなどを実際の授業でどこまで有効に活用できるかに FD の意識が移っていることがうかがえる。今後も、この意識を高く持ち、全学及び部局内での FD 活動及び情報共有をすすめることで学生により一層の力をつけさせるよりよい授業構築を目指していきたい。とりわけ、今後より一層教育学習活

動の可視化が求められるなか、学類、コース、専攻等での活動をわかりやすく把握し全学として情報共有できるような仕組みを構築し、授業評価アンケート、成績分布などを教学 IR として整理し、部局の教育活動支援に使えることも重要である。

一方で、組織的なシラバスチェック体制（シラバス英語化率のチェックを含む）、授業評価及び卒業・修了者アンケート結果の活用、授業評価の経年変化分析、授業参観の普及、成績評価基準としてのルーブリックの普及、成績分布の偏りに対する組織的対応、教育賞等教育業績の積極的な評価の普及などについては、実施しているとの回答が低調であることも明らかとなっているため、今後、何らかの方策の検討が必要であると考えられる。

本 FD 活動報告書作成にあたっては、「照会事項1 令和元年度に提案された予定・課題の達成度」と「照会事項7 令和2年度FD活動の自己評価及び総評」を設けており、その間に具体的な FD 活動に関する照会がはさまれて形としている。まだまだ部局からの回答に精粗が見られる点はあるが、今後もこの流れによる FD 活動の PDCA サイクルを定期的にまわしていくことで、FD 活動報告書作成作業がよりよい教育環境整備の一助となることを願う。

1-3 FD委員会の活動

令和2年度における活動		
令和2年4月3日	(金)	令和2年度新任教員説明会<教育・学生編>・令和2年度第1回全学FD研修会
令和2年7月31日	(水)	第1回FD委員会開催(書面附議)
令和2年9月29日	(火)	第2回全学FD研修会「オンライン授業設計ワークショップ」開催
令和2年9月30日	(水)	第2回FD委員会開催
令和2年10月30日	(金)	第3回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」開催
令和2年12月11日	(木)	第3回FD委員会開催
令和3年2月28日	(金)	第4回FD委員会開催
令和3年3月1日 ～24日	(月) (水)	英語による授業担当者のためのFD研修会開催
令和3年3月25日	(木)	第4回全学FD研修会「教育実践報告会」開催

- 各委員会の協議・報告事項及び議事要旨については下記にて公開している。
本学トップページ→教職員→学内会議の議事要旨等→FD委員会
<https://www2.adm.kanazawa-u.ac.jp/kaigi/gakusei/02/index.htm> (学内限定)
- 各研修会(英語による授業担当者のためのFD研修会は除く。)の動画又は資料については本学ポータルサイト(アカンサスポータル)にて公開しているので、教職員は随時閲覧可能である。

【研修会】

「令和2年度新任教員説明会<教育・学生編>・令和2年度第1回全学FD研修会」		
主 催	教育企画会議専門委員会 FD委員会	
日 時	令和2年4月3日(金) 13時15分～16時00分	
会 場	総合教育2号館 A1講義室	
対 象	前年度研修会(平成31年4月3日開催)以降に本学に採用された教員を主とし、関心のある教員や学生系職員の参加も可能	
参 加 者	70名	
概 要	新任の教員を主な対象とする全学の研修会は、平成20年度から毎年度開催している。従来は、「教養教育担当に関する初任者研修」(共通教育機構が実施、平成16～18年度)、「新任教員等研修会(兼共通教育担当に関する研修会(初任者対象))」(教育担当理事と共通教育機構長の連名で実施、平成19年度)として開催されてきた。	

1-3 FD 委員会の活動

本研修会の目的は、本学の教育及び学生支援等の現状を把握し、教育体制全般に対する理解を深めることである。	
プログラム	第Ⅰ部 新任教員説明会＜教育・学生編＞ (1) アカサスポータルについて (森 祥寛 総合メディア基盤センター助教) (2) 正課教育 (青木 健一 教育・高大接続担当理事) (3) 学生生活の指導と支援 (片岡 邦重 学長補佐 (教育改革・学習支援担当)) (4) 学生の心のケア及び学生相談について (足立 由美 保健管理センター准教授) (5) 学生募集及び入試状況について (尾島 恭子 前学長補佐 (学生募集・入試改革担当)) (6) 本学における FD (杉森 公一 前 FD 委員長代理) 第Ⅱ部 FD 説明会 実践ミニ研修会 「明日からの授業の組み立てを考える ～ 授業デザインと学生の学びを促す技法」 (杉森 公一 国際基幹教育院高等教育開発・支援系准教授)
	
アンケート 結果 抜粋	・入試も変わってきたということを知った。 ・将来の学生の姿を含め PDCA を廻すことを理解した。 ・教育法をいままで知ることがなかったので、教育をする上で良いモチベーションになった。

「第2回全学 FD 研修会 オンライン授業設計ワークショップ」

主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会, 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門, 国際基幹教育院スキルアップセンター
日 時	令和2年9月29日(火)
会 場	Zoom によるオンライン開催
参 加 者	7名
概 要	本研修会は、主に新任教員を対象とし、次のことを目的として実施した。 ・オンラインツールと授業設計を行うために必要な教育の基礎的知識と技術

1-3 FD委員会の活動

	を身につけるとともに、参加者間での話し合いを通して、学生の学習を促すためのより良い授業を設計する。 ・異分野の新任教員が教育について語り合う場をつくる。
プログラム	内容 ・ オンラインツールを用いた授業づくり ・ WebEx/Zoom を活用した授業運営 ・ LMS・オンラインホワイトボードを用いた授業実践 講師：杉森 公一 国際基幹教育院高等教育開発・支援系 准教授 共同ファシリテーター：堀井 祐介 国際基幹教育院高等教育開発・支援系 教授

「第3回全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会」

主 催	教育企画会議専門委員会FD委員会，A P事業継承発展委員会，国際基幹教育院スキルアップセンター，国際基幹教育院高等教育開発・支援部門
日 時	令和2年10月30日（金） 14時00分～16時00分
会 場	本部棟6階大会議室または Webex によるオンライン開催
参 加 者	67名
概 要	金沢大学では、毎年部局ごとの組織的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動について FD 活動報告書にまとめ、公開することで、活動の共有と振り返りを図っている。令和元年度 FD 活動報告書においては、学問分野の特性に応じた活発な取組みを紹介しており、部局を越えて参考になる事例が多い。令和2年度は、人文学類，国際学類，地球社会基盤学類，保健学類及び国際基幹教育院における FD 活動を全学的に共有した。
プログラム	「FD 活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー（ファシリテーター：杉森 公一 国際基幹教育院高等教育開発・支援系 准教授）



アンケート 結果 抜 粋	・ 各々の事例とも今後の FD 活動に役に立つ内容であった。 ・ 参考になる技法もあったので有意義だった。
-----------------	---

1-3 FD 委員会の活動

「英語による授業担当者のための FD 研修会」				
主 催	授業科目英語化に関する WG，国際基幹教育院スキルアップセンター 教育企画会議専門委員会教務委員会，教育企画会議専門委員会 FD 委員会			
概 要	本研修会は，英語による授業科目の拡充の取組の一環として，英語で教える ために必要な英語表現，スキル，手法を学ぶことに特化した内容で開催した。			
会 場	オンライン開催			
日 時	令和 3 年 3 月 1 日 (月) 2 日 (火) 9 時 00 分～12 時 15 分	令和 3 年 3 月 8 日 (月) 9 日 (火) 13 時 15 分～16 時 30 分	令和 3 年 3 月 10 日 (水) 11 日 (木) 9 時 00 分～12 時 15 分	
参 加 者	13 名	7 名	7 名	
受講コース	発音と Global Englishes	ゼミとディスカッショ ングループ	講義とプレゼンテーシ ョン (導入)	
日 時	令和 3 年 3 月 15 日 (月) 16 日 (火) 9 時 00 分～12 時 15 分	令和 3 年 3 月 17 日 (水) 18 日 (木) 9 時 00 分～12 時 15 分	令和 3 年 3 月 17 日 (水) 18 日 (木) 13 時 15 分～16 時 30 分	
参 加 者	10 名	6 名	6 名	
受講コース	アカデミックライティ ング (導入)	少人数クラスのプラン ニングとマネジメント	講義とプレゼンテーシ ョン (導入)	
日 時	令和 3 年 3 月 23 日 (火) 24 日 (水) 13 時 15 分～16 時 30 分			
参 加 者	5 名			
受講コース	講義とプレゼンテーシ ョン (発展)			
アンケート 結果 抜 粋	・英語のスキルというよりは，英語で授業を進めるためのコツを身につける ことができた。 ・学生へのフィードバックの適切な表現を学ぶことができた。 ・非母語話者に対する授業の進め方の注意点を具体的に知ることができた			

「第 4 回全学 FD 研修会 教育実践報告会」	
主 催	教育企画会議専門委員会教務委員会, 教育企画会議専門委員会 FD 委員会, AP 事業継承発展委員会, 国際基幹教育院スキルアップセンター, 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門
日 時	令和 3 年 3 月 25 日 (木) 13 時 30 分～15 時 30 分
会 場	Webex によるオンライン開催
参 加 者	85 名
概 要	オンライン型授業及びハイブリッド型授業の優れた取組について, 部局を越えて情報の共有を行い, 議論した。
プログラム	<人間社会学域> ・音楽教育における実技 (指揮) のオンライン授業の取り組み (浅井 暁子 人間社会研究域学校教育系 准教授)

	<理工学域> ・機械工学類，フロンティア工学類，電子情報通信学類におけるオンライン講義テクニック共有の取組 （下川 智嗣 理工研究域機械工学系 教授） <医薬保健学域> ・コロナ禍でも止めない医療系卒前教育 （太田 邦雄 医薬保健研究域医学系 医学教育研究センター 准教授） <国際基幹教育院> ・共通教育 GS 科目におけるオンライン授業 （垣内 康孝 国際基幹教育院 GS 教育系 教授） <全体討論> （ファシリテーター：吉永 契一郎 国際基幹教育院高等教育開発・支援系 教授）
アンケート 結果 抜 粋	・他学類の取り組みに触れることができ有意義だった。 ・使用できそうなツール，講義形態など，ノウハウを聞くことができ，有用だった。

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

令和2年度における全学及び各部局等のFD活動は種々実施され、全学のFD研修会(1-3)及び各部局等のFD研修会(後掲:2-5)も多数実施された。

その中で、特色あるFD活動を各々1つピックアップし、照会する。

【学域等及び研究科単位】

学域(人間社会学域、理工学域、医薬保健学域)、研究科(人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科)、国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動は次のとおり。

部局名	FD活動
人間社会学域	人間社会学域では、他学類のFD活動にも参加し、情報を共有し、他学類の取り組みを参考にすることで、自学類のFD活動の向上につなげることも目的として、令和2年度から、人間社会学域のFD活動を各学類が交代で担当する形で開始した。 今年度は、国際学類が担当で、令和2年10月27日(火)に、①対面授業+同時配信双方向型授業を行うための同時配信用備品の使用方法及び②令和2年度前期に実施した遠隔授業アンケート(国際学類生)の解説を行い、新型コロナウイルス感染症流行に伴い急速に広まった遠隔(オンライン)授業の課題等を共有した。 なお、研修会は、対面だけでなくテレビ会議システム「Webex」を用い、同時配信も行った。また、当日参加できなかった教職員も広く視聴できるよう、録画した動画をWeb上にUPした。
理工学域 自然科学研究科	【FDシンポジウム】 北陸信越工学教育協会産学連携教育フォーラム 「これからの理工系グローバル人材養成と英語による専門教育の在り方」 主催：北陸信越工学教育協会石川県支部 共催：金沢大学理工研究域教育方法改善委員会 開催主旨：理工学教育に求められるグローバル化と英語化対応について、学界及び産業界からの意見を伺い、現在及びこれからの大学・高専理工系におけるグローバル人材養成と英語による専門教育の在り方について議論する。 また、新型コロナ禍がこれらの人材養成や英語による専門教育に与えた影響や今後の新しい人材養成の方策を議論する。 開催日程：令和3年3月17日(水) 14:30-17:20 開催場所：金沢大学角間南地区自然科学本館大講義棟A 講義室 (Webexによる同時配信も実施するハイブリッド型) 参加者数：約100名

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	【授業ティップス(好事例)のWebClassによる情報共有】 現在のコロナ禍において、各学類教員が対応した様々な授業（オンライン授業、ハイフレックス授業）での工夫を、理工学域教員の中で情報共有できるようWebClassに教員限定の閲覧コースを設置した。 共有する事例を募集中。（現在2例登録）
医薬保健学域 医薬保健学総合 研究科	《医学類・研究科（医学系）・保健学類・保健学専攻》 医薬保健学域医学類及び医薬保健学総合研究科医学系では、医学類教育委員会のFD委員が国際基幹教育院のスーパーバイズの下、FD研修会を定期的に（月1回程度）開催している。対象は主に医学系及び保健学系教員で、本年度はCOVID-19蔓延に伴う対面での研修が困難となったことから、4月以降はすべて遠隔会議システム（主にWebex）を用いて学内教員向けに研修を行っている。内容は、授業のオンライン化に伴う手法の解説（LMS、教材作成、オンライン臨床実習や基礎実習、遠隔会議システム、オンラインでのスモールグループワークの実践紹介）から、対面授業再開に向けてのハイフレックス型授業の組み立て方の解説、といったアクティブ・ラーニングに関するもののみならず、本年度は、カリキュラムやポリシー、コンピテンシー、シラバスといった学生の学修全般や学生支援（メンタルヘルス、留学生対応）に関する内容を新たに組み込んだ。

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD 活動
	《薬学類・創薬科学類・薬学専攻・創薬科学専攻》 取組名称 薬学FD研修会 開催日 令和2年12月13日（日） 参加人数 49名（出張者を除く薬学系全教員） 【概 要】 薬学系では毎年、全教員の教育能力向上と新しい教育手法の紹介として薬学 FD 研修会を開催しており今回で 22 回目を迎えた。前年度同様、薬学系教員のほぼ全員が出席し、研修を実施した（欠席者はレポート提出）。本研修会では、「On-Line 研究、教育の進め方 -半年間の経験より学ぶ-」を題材に取り上げた。 新型コロナウイルス感染症の影響により、薬学では令和 2 年度 Q1 のすべての授業をオンラインで実施した。これを受け、薬学系 FD 研修会は薬学・創薬科学類 1, 2 年次を対象に令和 2 年 10 月にかけて、オンライン授業に関するアンケート調査を実施した。アンケート結果から、オンライン授業は、一定程度の不満要因はあるものの、学生からは総じて高く評価されていたことが明らかになった。教育の質保証の観点から、実施したオンライン授業の実態を把握するとともに、薬学系 FD 研修会でそのアンケート結果を共有した。さらにスモールグループに分かれて個々の教員が直面した On-Line 研究、教育の問題点を深堀して教員間で活発な議論が行われた。討論内容は「令和 2 年度薬学 FD 報告書」にまとめられている。 薬学系FD研修会の議論を受けて、ウィズ／ポストコロナ時代における授業指針として、授業内容や教員・学生のそれぞれの特性を考慮しつつ、対面授業とオンライン授業の双方の利点を組み合わせた、より効果的な「ハイブリッド授業」の実施を推進する。
人間社会環境研究科	今年度は「コロナ禍における遠隔授業と研究指導について」というテーマで、令和 3 年 2 月 8 日（月）に、FD 研修会を開催した。まず、1 月に人間社会環境研究科専任教員に対して行った、「大学院における遠隔授業と研究指導についてのアンケート調査」の分析の結果、次のことが明らかになった。学類の授業に比べて高度な内容を扱う大学院の授業では、非同期（オンデマンド）型では対応が難しいこと。一方、非同期型であればオンライン授業は有効であること。学類の授業に比べて少人数である大学院の授業においては、集まらなくて済むメリットなど対面型に優る可能性があること。外国籍の履修者がいる場合には、当該授業全体の分量や難易度

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	について一定の配慮が必要となること。実習的要素が入る授業では、教育効果が対面授業に劣る傾向があることが示された。このような知見を元に、その後新型コロナウイルス感染症における大学院学生への遠隔授業と研究指導に関する現状共有と問題点、改善方法について意見交換を行った。 また、毎年5月頃に、要望を聞き、自由に意見交換する場として「大学院学生と研究科長との懇談会」を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で5月に実施できなかったことから、時期を変更して12月7日に実施した。なお、懇談会は渡日できていない留学生等にも配慮し、対面実施の他、テレビ会議システム（Webex）を併用して開催した。コロナ禍において渡日できない、あるいは遅れた留学生への対応の他、学生のから研究活動に関する要望を聞き、種々意見交換を行った。
国際基幹教育院	《GS教育部門》 国際基幹教育院GS教育系では、例年、FD活動の一環として毎月の系・部門会議の後に「情報交換会」を行い、教育・研究・大学業務など多岐にわたる話題についての情報交換を行っている。しかし今年度は新型コロナウイルス問題への対応として当該会議の大半が書面附議またはオンライン開催となり、情報交換会を開催するには至らなかった。 そこで本部局の特色ある試みとして試行的に取り組んでいる「オンデマンド型FD」を紹介する。前年度まで、FDは主として会議室等の対面で、いずれかの時限に実施された。この形式の場合、実施時限に授業を持つ教員は当然ながら参加できず、直前または直後に授業がある場合も一部のみの参加になるなどの制限があった。出張がある場合も当然参加できない。これに対し、今回実施したオンデマンド型FDでは、1)開催時間が昼休みの12時10分～12時40分（30分間）、2)紹介するコンテンツは予めビデオ録画してポータルに掲載しておく、3)ビデオを視聴したことを前提として、FD当日は協議に時間を充てる、の3点を特徴とする。これにより、2限または3限に授業のある教員を含めて原則としてどの教員でも参加でき、出張等ある場合でもビデオコンテンツそのものは視聴できる、当日限りで終わるのではなく、コンテンツを何時でも何度でも繰り返し視聴できる、というメリットがある。今後、この方式でしばらくコンテンツを充実させていることを予定している。

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	《外国語教育支援部門》 令和2年度は外国語教育部門のすべての教育企画部はオンラインイベントを通して、充実したFD活動を行った。部門共通のテーマとして、オンライン授業の在り方、問題点及び改善点を取り上げ、研究会及び日本国内外の研究者（早稲田大学・ハワイ大学）による講演会を複数開催し、オンライン授業における教材作成ツールの多様化の実態、オンライン授業と対面授業による教授法及び学びのスタイルの変化に資する授業実践事例を共有し、ポストコロナ時代における言語教育のありようについて検討を重ねた。 特筆すべき点は、本学のSGU英語教育に大いに貢献した英語教育と専門教育をつなぐEAP教育企画部の試みであり、TOEICのスコアに基づいたEMI（英語による授業）の受講能力や効果的な授業形態に関する国際試験教育企画部の取り組みである。また、初習言語教育企画部においては、金沢大学で開講されている七つの初習言語の個々の特徴を踏まえた教材開発及びオンライン授業の経験を生かした反転授業の促進に努めたことである。 今後も外国語教育系・部門では、今後オンラインスタイルと従来の対面形式を併用・活用し、FD活動をより一層活発に行い、多くの教員・研究者と共有する機会を増やす努力をしていきたい。 《高等教育開発・支援部門》 コロナ禍において、アクティブ・ラーニング推進型から、遠隔授業中心へとFDのテーマを変更し、全学および国際基幹教育院でのFD活動を進めてきた。国際基幹教育院スキルアップセンターとして、高等教育開発・支援部門だけでなく、GS教育部門、外国語教育部門と連携したFD活動を進めてきた。英語ネイティブ教員の報告を盛り込むなど、言語の制約なしにFD活動を進められたことは特筆すべきことと考えられる。また、お昼休みなどの短時間を使ってのFD活動も効果的であった。部門予算を活用し、オンライン会議システム、PC画面収録システムを購入し、GS科目やGS言語科目での実践を支援したことも特徴的であると考えられる。

【学類単位】

今回は、法学類、経済学類、数物科学類、物質化学類、機械工学類、生命理工学類及び医学類で実施している特色あるFD活動を紹介する。

○法学類

取組名称	オンライン授業における教員とアシスタント学生の協力関係について
開催日	令和2年6月9日（火）、9月24日（木）、12月3日（計3回）
参加人数(概数)	（第一回）25名、（第二回）24名、（第三回）40名

オンライン授業においてどのシステムを使った場合にどのような長所短所があるか、録画をどのように行って、オンデマンド授業に活用するか、更には、オンライン授業と対面授業を併用する場合、どのように映像を録画＋同時配信するか、アシスタントの学生とどのように連携するかについて、三回にわたってFD研修会を行った。第一回目は、Zoomの他、Webexやskype, discordなど、様々の媒体を併用してオンライン授業を行っている教員の実践例が報告され、どのように授業を記録し、アカンサスポータルにアップするかなどを検討した。第二回は、大学院法務専攻など大学院の授業でのオンライン授業との連携の可能性について実践報告をもとに議論した。第三回は、対面授業をオンライン配信すると共に、録画してオンデマンド用にも用いるうえで、どのような機材が必要か、どのように録画するか、授業中どういうことに注意すべきか、アシスタント学生にどのような役割を担ってもらうか、といった問題について、実践例に基づき報告があり、意見交換した。写真は、同時配信の授業を中継・録画配信するために、法学類で準備した機器のセット。



○経済学類

取組名称	LMSコース内に教員のための談話室(FD)の設置
開催日	常時
参加人数(概数)	不明(書き込みを閲覧している教員まで特定できないため)
【LMSコース内に教員のための談話室(FD)の設置】 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、十分な準備期間もなく遠隔授業が開始された。オンデマンド方式やリアルタイム式の授業には、PPTやZoomの録音録画機能を用いることになるが、その扱いにほとんどの教員は不慣れで、試行錯誤を余儀なくされた。そこで、教員間で気軽に情報交換ができ、速やかに問題が解決できるよう談話室(FD)を設置した。これにより、情報交換ができるだけでなく、積極的に情報を発信しなくても、そのサイトに入ることで関心のある情報を手軽に入手できるようになった。 総投稿件数9件だが、そのうち頻繁にやり取りされた話題は次のとおり： ・遠隔授業のための機器やソフトの操作方法 ・学外からのVPN経由でKains-Webmailの操作方法 ・オンラインによる初学者ゼミ(遠隔ゼミを通じて学生が不安)の対処法 ・遠隔授業で反応のない学生に対する対処法	

○数物科学類

取組名称	数物FD研修会
開催日	令和2年9月30日(水)
参加人数(概数)	26名
内容 (1) 前期(Q1, Q2)におけるオンライン授業紹介(大浦学, 中村健一, 大塚浩史), 情報交換(その他の方法, 工夫, 学生の反応, など) (2) 後期(Q3, Q4)に向けて, 録画機材の使い方(大浦) (3) その他 上の内容に従って, 進められた。 (1) 大浦はパワーポイントに音声録音し, mp4 を作成し, アップロードする方法を述べた。中村, 大塚はそれぞれZoom, YouTube を利用した方法を述べた。発表後の質疑応答も含め, ファイルの圧縮方法への取り組み, 学生からのレポートを一括してダウンロード, 採点したファイルを一括してアップロードする方法なども紹介された。 (2) 大浦がWebexを使った配信・録画の方法について述べ, 細かい操作方法なども議論された。 (3) Q3の授業形態等について, 2クラスにわたる条件の確認などを行った。 Q1, Q2におけるオンライン授業から, Q3では原則対面授業としつつ授業によっては同	

時配信なども行うという変化があった。情報共有など含めて、非常に活発な討論が行われた。

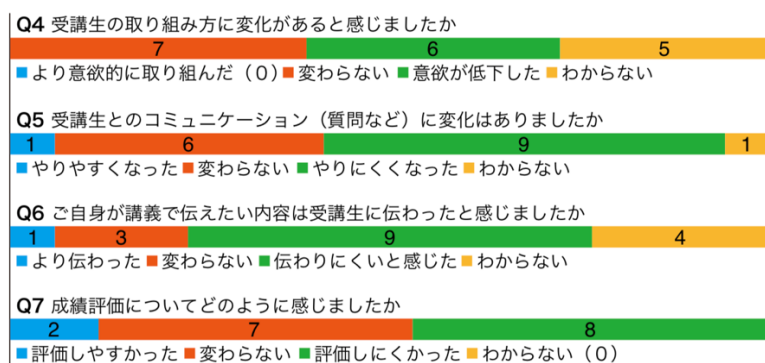
○物質化学類

取組名称	第19回FD研修会
開催日	令和2年9月8日(火)
参加人数(概数)	20名

「講義の進め方とその工夫・問題点の紹介」をテーマに、FD研修会を開催した。主催は物質化学類応用化学コースであるが、コース外の教職員の聴講も可能とした。

特に今年度はQ1、Q2において本格的なオンライン講義が始まったことを踏まえて、オンライン講義における利点・問題点・工夫の情報交換が中心となった。具体的な講義内容に関しては、ナノマテリアル研究所 當摩哲也教授に話題提供をしていただき、参加者はオンライン講義における学生の履修態度の変化や、他学類提供科目における成績評価で留意すべき点について理解した。

その後、本学類コーディネーター 古山溪行准教授が「令和元年度卒業研究の自己診断アンケート」について報告し、自由討論により意見交換を行った。また、事前に応用化学コース教員に対し、オンライン講義に関するアンケートを行い、その集計結果の報告およびオンライン講義の将来について意見交換を行った。



オンライン講義に関するアンケート結果の抜粋(全体の結果は現在理工学域全体に公開・共有している)

○機械工学類

取組名称	第1回3学類合同FD研修会（オンデマンド）
開催日	令和2年11月28日（土）～令和3年3月26日（金）
参加人数(概数)	120名程度
新型コロナウイルスの感染予防対策として4月から実際されたオンライン講義の授業方法を改善するために各教員が講義準備を通じて習得した講義テクニックを3学類（機械工学類，フロンティア工学類，電子情報通信学類）が共有することを目的とした研究会である。研究会の形式は講義テクニック集をLMSにアップしたオンデマンド形式とした。 まず，Q1終了後に学類毎にオンライン講義テクニックを集めて所属教員間で共有し（第1回機械工学類FD研修会：令和2年9月29日），その後，Q4以降の更なる講義改善に向けて，これまでに蓄積した情報を3学類で共有した。参加者の感想として，web形式（オンデマンド形式）に対する不満は一つもなく，対面形式よりもアクティブに情報を習得できるとの評価を多く得ることができた。	
2020年度理工3学類FD研修会（オンライン） 2020.11.27 教育方法改善委員会委員 機械工学類 下川 智嗣 simokawa@sc.kanazawa-u.ac.jp フロンティア工学類 比江嶋 祐介 hiejima@sc.kanazawa-u.ac.jp 電子情報通信学類 松谷 茂樹 s-matsutani@sc.kanazawa-u.ac.jp 先日学類ごとに教員の皆様から，2020年度Q1から始まったオンライン講義の経験を元にした講義テクニックの情報提供をいただきました。情報提供いただいた各教員から許可をいただきましたので，この度，これらの講義テクニックを3学類で共有させていただきます。学類を超えた情報が，皆様の更なる教育方法の改善のヒントになれば幸いです。 掲示板を設定いたしましたので，追加で講義テクニックを共有いただける場合はそちらに書き込みをよろしくお願いいたします。匿名での投稿も可能となっております。 なお，各学類の講義テクニックのご質問は，該当する学類のFD委員へお問い合わせ下さい。FD委員が情報提供をいただいた教員に問い合わせ回答をさせていただきます。 どうぞよろしくお願いいたします。 2020年度理工3学類FD研修会 1. 3学類FD研修会 - 資料 - 更新 3ヶ月前 - 実行者数 40 2.1 機械工学類で集めた講義テクニック集 - 資料 - 更新 3ヶ月前 - 実行者数 41 2.2 フロンティア工学類で集めた講義テクニック集 - 資料 - 更新 3ヶ月前 - 実行者数 40 2.3 電子情報通信学類で集めた講義テクニック集 - 資料 - 更新 3ヶ月前 - 実行者数 39 3. その他の講義テクニックの情報提供 - 掲示板 - 実行者数 41 4. 2020年度受講確認およびアンケート - アンケート - 更新 3ヶ月前 - 実行者数 38 利用可能期間 2020/11/27 11:00 - 2021/03/26 12:00	

○生命理工学類

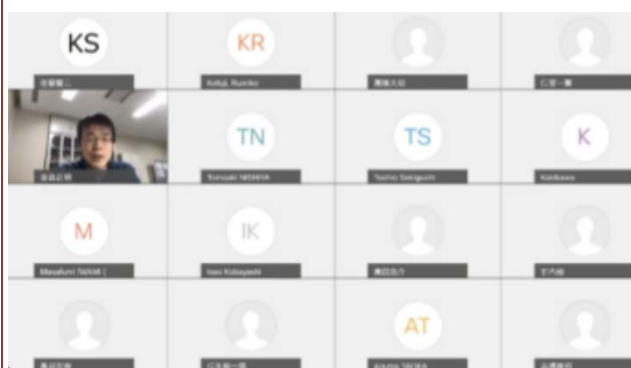
取組名称	生命理工学類FD研修会—オンライン授業の改善に向けて—
開催日	令和2年10月30日（金）
参加人数(概数)	20名

当学類では、教員がオンライン授業で直面した具体的な問題点とその改善方法等について、Webexを利用して座談会形式で話し合った。

まず、学類長の佐藤先生より「動画ファイルのサイズについて」と題して10分間程度、固定フレームレート形式や可変フレームレート形式等について説明があった。その後、第3クォーターから始まった同時配信授業の問題点（教室カメラ、マイク、ポインターなど）について話し合った。また、授業の質や学生の反応について意見交換した。最後に、オンライン授業ではなく、対面で行う実験について、どのような注意点があるか話し合っ

て研修会を終了した。

オンライン授業の実施方法についての全学的な研修会は何度か開催されたが、実際にオンライン授業を実施すると様々な問題が生じた。類似の授業を担当する教員間で、より身近な問題点について話し合った今回の研修会は、大変意義深いものであった。



オンライン研修会の一場面

○医学類

取組名称	医学系FD研修会
開催日	毎月（4月，8月を除く）第2月曜日
参加人数（概数）	各回20～50名程度

医学系では、FD研修会を月1回の定期開催を行った。本年度はCOVID-19蔓延に伴い、すべて遠隔会議システム（主にWebex）を用いて学内の医学系・保健学系教員向けに研修を行った。内容に関しても、例年はアクティブ・ラーニングに関してのみだったが、対面講義・実習のオンライン化など状況の変化があったため、毎月テーマを再検討した。その結果、「臨床実習オンライン化」「遠隔授業の設計の仕方とヒント」「オンラインでのスモールグループワーク」「ハイフレックス型授業の実演とヒント」という内容で実施した。さらに本年度はアクティブ・ラーニング以外でも教員として共有すべき内容を組み込んだ。その中には「医学類のカリキュラムと学習成果」「コンピテンシーとカリキュラム作成・評価」（図）「シラバスの意義と記載の注意点」といったカリキュラム及び授業設計に関する内容や、保健管理センターや留学生支援を行っている教員の先生方に御登壇頂き「学生のメンタルヘルスケア」「留学生への支援」といった学生支援に関する内容を新たに組み込み、現在進行している問題点について教員同士で共有を行った。



図「コンピテンシーとカリキュラム作成・評価」をテーマとしたWebEx研修会の様子

1－5 国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門の活動

【部門の活動指針】

国際基幹教育院高等教育開発・支援部門は、金沢大学国際基幹教育院規程第 13 条第 1 項において同規程第 3 条第 1 項 9 号「教育方法、教育システム及び教育支援に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発」に係る業務を担当する。

より具体的な業務については、

- (1) 学習成果達成度の分析に関すること
- (2) 教学情報の分析に関すること
- (3) 教育プログラムの研究、検証及び改善支援に関すること
- (4) 教育方法・教育支援方法の研究、検証及び改善支援に関すること
- (5) 学習支援・学生支援方法の研究、検証及び改善支援に関すること
- (6) その他内部質保証マネジメントに関すること

についての研究開発を行うとともに、「本学の教育方法、教育システム及び教育に係る質保証システムに関する提言を行う(金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門細則第 3 条)。」

これらに基づき、高等教育開発・支援系/部門は、本学における教育の企画・実践・評価・改善に直接的に関わるとともに、関係部署への支援を行っている。

【令和 2 年度の活動】

令和2年度においては、本部門の規程・細則に基づく FD・SD活動を予定していたが、新型コロナウイルス禍対応により、急遽、学内での遠隔授業支援対応が中心のFD研修会活動を行った。アクティブ・ラーニング推進型から、遠隔授業中心へとFDのテーマを変更し、全学および国際基幹教育院でのFD活動を進めた。国際基幹教育院スキルアップセンターの活動として、高等教育開発・支援部門だけでなく、GS教育部門、外国語教育部門と連携したFD活動も進めた。英語ネイティブ教員の報告を盛り込むなど、言語の制約なしにFD活動を進められたことは特筆すべきことと考えられる。また、お昼休みなどの短時間を使つてのFD活動（FDランチョンなど）も効果的であった。その他、人間社会学域および理工学域の学類長、FD研修会委員長などとの懇談の場を設けて、学類単位でのFD支援体制強化にも努めた。

加えて、スーパー・グローバル大学創成支援事業(SGU)関連、および、大学コンソーシアム石川教職員研修専門部会関連の FD・SD 活動推進にも携わった。

学内での活動

① 全学 FD

- 全学 FD 研修会（初任者研修）（4 月 3 日）70 名
- 遠隔講義実施説明会 「遠隔授業の進め方（入門編）」（4 月 10 日）対面 30 名以上、遠隔参加 200 名以上
- 全学 FD 研修会「WebClass の使い方」（6 月 5 日）188 名

-
- 全学 FD 研修会「著作権について」(7月10日) 90名
 - 全学 FD 研修会「Webex の使い方, ハイブリッド型授業, 授業配信機材の使い方」(9月16日) 133名
 - 全学 FD 研修会「オンライン授業設計ワークショップ」(9月29日) 6名
 - 全学 FD 研修会「FD 活動報告書成果発表会」(10月30日) 67名
 - FD 研修会 「ハイブリッド授業の設定とヒント」(11月20日) 7名(対面4, オンライン3)
 - FD 研修会「テレビ会議システムでのブレイクアウトセッションの活用」(12月7日) 40名
- ② 部門の企画による FD (高等教育開発・支援系部門セミナー, スキルアップセンター活動を含む)
- カムタジア, WebClass 説明会 (4月9日) 5名
 - FD ランチョン「授業実践報告」(6月11日) 11名
 - FD ランチョン「授業実践報告」(6月25日) 28名
 - FD 研修会 「Zoom / Webex / Google Meet を使った授業」(6月26日) 135名
 - 国際基幹教育院スキルアップセンターFD 研修会 (3月16日) 32名
 - 第1回高等教育開発・支援部門セミナー 「開かれた大学とキャリア教育」(7月17日) 51名
 - 第2回高等教育開発・支援部門セミナー「非伝統型大学教員への道は一日にして成らず」(9月30日) 43名
 - 第3回高等教育開発・支援部門セミナー 「製品企画開発の最前線におけるデザイン思考」(1月20日) 38名
- ③ 学内 FD 研修担当 (FD ランチョン・FD ワークショップを除く)
- 令和2年度 CLA 基礎研修会オンデマンド (前期及び後期開催) (講師および教材作成担当: 杉森)
 - 第2回医学類 FD 研修会「オンライン講義のヒント」(6月8日) (講師: 杉森公一)
 - 第3回医学類 FD 研修会「コンピテンシーとその評価」(7月13日) (講師: 杉森公一)
 - 新学術創成研究科ナノ生命科学専攻 FD 研修会, 「コロナ禍での反転授業設計について考える」(1月7日), 講師: 西山宣昭
 - 保健学系令和2年度第2回FD研修会「「教育方法論」におけるハイフレックス-対面とオンラインを混ぜる工夫-」(2月3日) (講師: 杉森公一)
- ④ FD 委員会関連活動
- 全学 FD 報告書 (部局からの回答をもとにした点検) 担当
 - オンライン教育アンケート作成 (前期・後期) (日本語版・英語版)
 - オンライン教育アンケート分析 (前期・後期)
 - 授業評価アンケート全学共通化検討

⑤ 大学コンソーシアム石川教職員研修専門部会関連

- 「オンライン教育におけるツールとティップス」(9月2日) 49名 企画・運営：吉永契一郎，運営：杉森公一
- 「授業の基本～学生の理解度を高め，魅力ある授業を演出する」(9月24日) 118名 企画・運営：吉永契一郎，運営：杉森公一
- 「オンライン教育実践報告会」(10月19日) 29名 企画・運営：吉永契一郎，運営：杉森公一
- 「コーチング入門」(11月12日) 43名 企画・運営：吉永契一郎，運営：杉森公一
- 「プロジェクトのマネジメント」(12月10日) 47名 企画：吉永契一郎，運営：西山宣昭
- 「アセスメント・ポリシー ディプロマ・サプリメント」(1月26日) 企画：吉永契一郎，運営：渡辺達雄，講師：堀井祐介

学外での活動

杉森公一

- 第23回関西大学FDフォーラム「遠隔授業のデザインを考える・人の縁を描く授業」・「遠隔授業がつなぐ大学の学びのり・デザイン：デジタル・ペダゴジーへ」(6月13日)
- 関西学院大学法学部FD研究会「金沢大学でのオンライン授業の取組について・遠隔授業設計のヒントと実際」(7月15日)
- 東京都市大学FD「ハイフレックスモデル，実践上の工夫と課題」(9月7日)
- 徳島文理大学オンデマンドFD研修「大学教育のリノベーション（再創造・遠隔授業を契機として）」(9月15日)
- 北陸大学医療保健学部FD研修会「「問う力」を育てる「質問づくり」」(10月8日)
- 京都橘大学全学FD学習会「新時代の大学教育～緊急遠隔授業を超えて」(1月20日)
- (公社)石川県看護協会保健師職能委員会・石川県保健師長会研修「保健師実践能力向上研修会1～保健師の人材育成を考えよう～」(1月24日)
- 大学コンソーシアム京都第26回FDフォーラム シンポジウム講演「大学の教育・研究・社会貢献に新しいモデルは生まれうるか？～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～」(共同演者：岡本仁宏，山口洋典)(2月20日)
- 南九州大学FD講演会「ハイブリッド授業・ハイフレックスモデル，実践上の工夫と課題」(3月18日)

【令和2年度研究成果】

「論文6件」

- 杉森公一，＜課題研究シンポジウムⅡ＞米国大学ラーニング・アシスタントの事例からみる学修支援への示唆，大学教育学会誌，42(1)，56-58 (2020).

- 細川敏幸・鈴木久男・斉藤準・吉永契一郎「デザイン・シンキング入門—スタンフォード大学 d.school 研修報告」『高等教育ジャーナル』第 28 号, 73—81 頁, 2021 年
- 夏目達也・山田礼子・大森不二雄・渡辺達雄「教員の働き方改革にみる大学の危機」『大学教育学会誌』第 42 巻 2 号, 64—68 頁, 2020 年。
- 早田幸政, 堀井祐介, 「欧州圏における高等教育資格の国境を越えた通用性に関する規範的枠組み」, 2020 年 9 月 30 日, 『比較法雑誌 第 54 巻 第 2 号』, pp. 123-159, 日本比較法研究所
- 堀井祐介, 「欧州における内部質保証の枠組みと各国での取り組み」, 2021 年 03 月 31 日, 『教学マネジメントと内部質保証の実質化』(JUAA 選書 16), pp. 242-260, 永田恭介, 山崎光悦編著, 大学基準協会監修
- 堀井祐介, 「道德教育と宗教教育の位置づけ —デンマークと日本との比較—」, 2021 年 3 月 31 日, 『教育人権保障の到達点と課題』(日本教育法学会年報第 50 号), pp. 159-160, 有斐閣

「学会発表 10 件」

- 杉森公一 (司会・報告), ラウンドテーブル 10「アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実践枠組みの提案」大学教育学会第 42 回大会 (オンライン), 2020 年 6 月 7 日
- 杉森公一, 「ROBOT-PROOF (ロボット・プルーフ)・AI 時代の大学教育に求められる新しいリテラシー」名古屋大学高等教育研究センター第 184 回招聘セミナー (オンライン), 2020 年 6 月 25 日
- 佐藤浩章・杉森公一, 「2020 年後学期の 15 のシナリオ徹底検討 ~新型コロナウイルスに対応する”低密度な大学”の姿とは?~」第 11 回日本高等教育開発協会 (JAED) 研究会 (オンライン), 2020 年 8 月 18 日
- 杉森公一・西野毅朗・竹中喜一・吉田博, 「日本版 CTL アセスメント基準 (試行版)」を活用して—」第 12 回日本高等教育開発協会 (JAED) 研究会「大学教育センター等の現在と未来を考える」(オンライン), 2020 年 9 月 15 日
- 杉森公一・堀井祐介・宮本知加子・田尻慎太郎「<課題研究シンポジウムⅣ>アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究」大学教育学会 2020 年度課題研究集会 (オンライン), 2020 年 12 月 29 日
- 吉永契一郎, 「カール・ワイマンの大学教育改革案」第 42 回大学教育学会大会自由研究
- 吉永契一郎, 「デザイン思考の手法と実践」第 42 回大学教育学会大会ラウンドテーブル
- 渡辺達雄他 4 名の共同発表「教員の働き方改革にみる大学の危機」第 42 回大学教育学会大会ラウンドテーブル, 2020 年
- 濱田里羽 「発達障害のある大学生の時間管理を支援するアプリケーションの開発に向けた TODO リスト機能の試用」(会議名: 大学教育学会第 42 回大会)(2020/06/06)
- 堀井祐介, 「日本の「特別の教科 道德」とデンマークの「宗教教育」の学習成果比較」, 2020 年 11 月 29 日, 日本道德教育学会第 96 回 (2020 年度秋季大会) 自由研究発表,

畿央大学 オンライン

「外部資金獲得 7 件」

科学研究費補助金（研究代表者）

- 吉永契一郎, 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「学生プロジェクトの国際比較によるイノベーション教育のための教育課程と教授法開発」(2019 年～2022 年)
- 濱田里羽, 科学研究費助成事業 若手研究(B)「発達障害のある大学生のタイム・マネジメントを支援するアプリケーションの開発」(2017 年～2021 年)
- 杉森公一, 科学研究費補助金 基盤研究(C)「省察的教育実践を促す対話型教育開発のアクションリサーチ」(2018 年～2020 年)
- 堀井祐介, 科学研究費補助金 基盤研究(C)「英国大学評価におけるく学生エンゲージメント>の実証的研究」(2019 年～2021 年)

科学研究費補助金（研究分担者）

- 吉永契一郎, 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (研究代表者：鈴木久男)「STEM 領域での問題解決能力育成と評価についての研究」(2019 年～2021 年)
- 吉永契一郎, 堀井祐介, 科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究代表者：稲垣美幸)「大学の第三の職種としての専門職を取り巻く課題の実証的研究」(2019 年～2021 年)

その他

- 高等教育開発協会研究費助成事業「大学教育センター等 (CTL) の日本版アセスメント基準の開発」(研究代表者：西野毅朗, 研究分担者：杉森公一・竹中喜一・吉田博) 2020 年度

【高等教育開発・支援部門の廃止】

本学は令和 2 年度限りで国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門を発展的に解消し、令和 3 年度から新たに教学マネジメントセンターを設置した。

今後は、教学マネジメントセンターが全学の FD・SD 活動の支援を行う。

2 各部局等のFD活動

2-1 照会事項1 令和元年度に提案された予定・課題の達成度

【検証事項1】令和元年度に提案された予定・課題の達成度

昨年度実施した検証事項2の予定・課題の達成度について、取りまとめる。

「令和元年度金沢大学FD活動報告書」(抜粋)
 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況
 【検証事項2】: 検証事項1の授業評価アンケート及び令和元年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和2年度に行われる教育方法の改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画。

○人文学類

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	ホームページや学類会議等の機会を通じて教員、該当するコースにフィードバックして改善を促す予定である。
達成度: 例年実施を予定している授業評価アンケート、卒業者アンケート、教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行禍の影響があったために当初計画を縮小した部分もあるが、ほぼ着実に実施した。このうち授業評価アンケートと卒業者アンケートについてはFD委員会での検証後に、各コース・主履修分野に対して結果をフィードバックするとともに令和元年度に引き続いて人文学類Webページに公開して、改善を促した。なお、シラバスの点検については教務委員会によるシラバス点検の一環として実施されているが、FD委員会の関与が必ずしも十分とは言えない。また、ALA(アクティブ・ラーニング・アドバイザー)の専門科目での導入については今年度も教員に活用を促したが1科目にとどまった。	

○法学類

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	高評価を得ていることから、現在遂行中の法務研究科との連携強化等の着実な遂行を図る。
達成度: アンケート結果を踏まえ、学生の学習意欲を刺激するための授業改善について学類と法務専攻の合同研修会で議論を重ねた他、コロナ禍でのリモート授業や対面とリモートを併用した授業をどのように効果的に行うか、また、オンライン授業に際しての各種の工夫が、通常での授業でも活かせるかについて、アシスタントの学生の意見を踏まえながら検討を重ね、様々な試みを行った。目標の達成に向けて大きく前進したと考えられる。	

○経済学類

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケート及び卒業者アンケートから改善点を洗い出し、FD研修会等で教育の質を上げる努力を継続していく。
達成度: 授業評価アンケート及び卒業者アンケートを実施し、その結果を所属教員に共有し、改善に向けた議論ができるようFD研修会と学生との懇談会を開催した。今年度はコロナ禍による遠隔授業とな	

ったので、その問題点を教員側ではFD研修会により洗い出し、改善に向けた話し合いを行った。また、学生側から問題点を直接聞きだす機会を2回設け、教育の質を落とさないためにまだまだ工夫の余地があることを認識した。目標の達成に向けた努力は十分に行っている。

○学校教育学類

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	令和元年度の卒業生アンケートは、新型コロナウイルス感染症感染防止のために卒業式が中止となったことから、アカンサスポータルなどで回答を強く呼びかけたものの、例年を大きく下回る回収率に留まった。そのため、本アンケート結果の解釈には慎重を要する必要があるが、学類の学修成果に基づく学習状況についての自己評価において全ての項目で十分に達成している、ある程度達成していると回答した者が85パーセント以上であったことから、教員養成という本学類のミッションを達成できたのではないかと考えられた。ただし、なるためノートについて、内容や指導教員の指導への評価が高いにもかかわらず、積極的に取り組んだ学生が少なかったことや、教育現場に学生が実際に足を運ぶ機会を多く設定した方が良いという意見が複数の学生からあったことから、次年度は、本年度実施した学校インターンシップ試行を踏まえた学校インターンシップの本格実施や、なるためノートの学生アンケートを踏まえたなるためノートを用いた指導のさらなる見直しなどの実施を検討する必要がある。
達成度： 令和2年度の卒業生アンケートは、グーグルサイトを利用することを学位記授与式以前より周知し、式当日にもQRコードを配布することで学生から100%の回答を得ることができた。卒業生アンケートに関しては目標を達成できた。一方、令和元年度の学生アンケートでは、なるためノートについて、内容や指導教員の指導への評価が高いにもかかわらず、積極的に取り組んだ学生が少なかったことや、教育現場に学生が実際に足を運ぶ機会を多く設定した方が良いという意見が複数の学生からあったことから、本年度は、学校インターンシップの実施初年ということもあり、改善できることを期待していた。だが、4月当初からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、受け入れ先の諸学校との関係で授業規模を縮小せざるを得なくなり、達成度としては不十分であった。なるためノートの実施についても今後、オンラインシステムを用いた電子化にできるだけ移行することを検討している。	

○地域創造学類

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	教員の教育力向上のためには2～3年スパンで検討する事項ではあるが、まずは、FD活動を展開する等、考えられる限り多面的に課題に取り組む。
達成度： 卒業生アンケートの質問事項を以前の内容から大幅に修正して実施した。修正により学生が回答しやすくなったことと、回答期間を長めに設定し、また学位記授与式当日にもアンケート回答を依頼したため、回答率は向上したが、まだ向上させる余地はある。アンケート結果は所属教員で共有した。データの分析をさらに進め、それを踏まえて、令和3年度に学類カリキュラムの改善につなげる。授業評価アンケートの結果は、FD委員会を中心にして検討し、各教員に授業改善を求めることとする。また、FD研修会を実施して、よりよい授業に向けて、意見交換を行う。	

○国際学類

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	本学類の提供する授業に関し理解度、有益性、進度の適切さや内容の水準等あらゆる点において学生が高い評価を示したことは、本学類教員の高い教育能力のエビデンスである。一方、予習・復習について、極めて評価が低いアンケート結果が示されたことは、学生の側の意識のみならず、教員の教育観の中で、この側面において、明瞭な価値づけや位置づけが確立さ
-------------------------------------	---

	れていないことを示している。これは従来からの文系科目の授業形態から見てやむを得ない側面もあるが、教育相互の議論や情報交換を通じて意識改革を促進していく必要性は感じる。そのため、学生に対する啓発と合わせて、「予習・復習の実質化」として、研修会をはじめとする令和2年度の本学類 FD 活動の主要な柱とする方針としている。
達成度： 昨年提起された改善課題は「カリキュラム上の予習・復習の役割についての意識化」と「(外国語をではなく) 外国語で学ぶことに向けた意識改革」の二点であったが、突然のコロナ対応を通じて、遠隔授業実施の副産物として不可避免的に、予習・復習を組み込んだ各授業の講義計画作成が済んだことは大いに評価できる。教員の側にもこれらを学生に実施させることを授業実践の前提とする意識が確固たるものとなったのみならず、「予習・復習はするもの」という感覚が学生の側にも定着してきたように感じられる。コロナがもたらした怪我の功名と称してもよいだろう。今後はこうした昨年の経験を活かし、これを今年度以降の平時の授業計画編纂に活用していく工夫が求められよう。他方コロナ対応にかかわる業務の錯綜の中で、「(外国語で学ぶではなく) 外国語で学ぶ」という学生の意識改革には、ほとんど着手することができなかった。令和3年度の課題としたい。	

○数物科学類、数物科学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケート結果から、学類の重要な基礎的科目の理解度に対する自己評価の改善がさらに必要と考えられたので、それらの科目に対する TA 及び ALA の採用計画策定に取り入れるとともに、学生の基礎力向上のための教育方法の検討を行っている。
達成度： コロナ禍の中、遠隔講義のノウハウなどの情報交換を行い、学生の理解度・習熟度を向上させる取り組みを行った。その過程における教材の再構成などを通して、基礎的科目の理解向上のための教育方法の改善が行われた。TA/CLA 採用計画も基礎的科目の理解力を上げることを重点に行えた。	

○物質化学類、物質化学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケート結果について、理工学域 Web サイトにて公表している。 授業評価アンケートに対する教員の対応策の文書化については、各教員にリフレクションペーパーの作成及び保管を義務付けている。 これらの内容を元に、学類内において毎年 FD 研修会を開催し、アンケート結果を踏まえた教育方法の改善について議論している。
達成度： 学類内における FD 研修会において、各種アンケート結果の共有を行い、アクティブ・ラーニングの導入、授業の英語化を含む授業設計について継続して検討している。また、今年度より本格的に始まったオンライン講義に対応し、オンライン講義に関するアンケートを行い、利点や改善点などについて共有することで、ハイブリッド形態を含む教育方針について十分な確認ができた。	

○機械工学類、機械科学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケート結果について、理工学域 Web サイトにて公表している。 授業評価アンケートに対する教員の対応策の文書化については、各教員にリフレクションペーパーの作成及び保管を義務付けている。 また、アンケート集計結果を学類会議で紹介し、教育方法の改善など教員の教育能力の向上に向けた話題提供を実施していく。更に各種アンケート結果を大学院改組にも活用し、これ
---------------------------------------	--

	までに培ってきた各教員の教育能力が十分に発揮できるカリキュラムの構築に貢献する。
達成度： 初めて取り組んだオンライン講義の Q1 終了後に、令和 2 年度の授業評価アンケート結果と昨年度（対面講義）のアンケート結果と比較する資料を作成し、その資料を学類会議で紹介し、さらに所属教員に配布し、Q2 以降のオンライン講義の改善に繋がった。また、個々の教員が習得したオンライン講義に関するテクニックを集めて所属教員に共有し、組織的に教育能力の向上に繋がった。そのため、達成度は高い値として評価できる。	

○フロンティア工学類

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	アンケートの回収率や実施方法に関して学類内の意見を求めた。授業時間内に回答時間を設けることについては、授業時間が削られるために反対する意見もあり、今後実施方法を含めた検討が必要と思われるので、FD 委員を中心に学類会議等を利用して対策を検討する。
達成度： 授業評価アンケートに関しては、コロナ禍の影響により、多くの科目で対面授業が不可能となり、有効な対策を打ち出すことができなかった。しかしながら、理工 FD 委員会で議論を重ね、学生の入力負担を軽減することで、回収率の向上を目指して、アンケート項目を抜本的に見直して、大幅に簡素化し、Q3 より実施した。具体的には、教員の振り返りに本質的に重要な項目のみを必須の設問として、教員独自の質問も追加できるようにした。	

○電子情報通信学類（電子情報学類）、電子情報科学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケート結果の活用方法に関しては、今年度、学類内で検討を進める。また、3 学類 FD 研修会での議題として取り上げることも検討する。
達成度： コロナ禍によるオンライン授業のため授業評価アンケートの回答率が下がったため、その改善に注力した。また、授業評価アンケートの活用の検討に関しては、コロナ禍のオンライン授業の対応を優先した。オンライン授業対応としては、オンライン授業等のティップス（好事例）を収集し、三学類内で共有を行い、各教員の授業改善に役立てた。授業評価アンケート結果の活用方法の検討に関しては、学類内で意見の収集を行い、活用方法の提案を行った。活用方法の審議と実施に関しては次年度に持ち越した。	

○地球社会基盤学類（環境デザイン学類）、環境デザイン学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	それぞれの研究室の教員に依頼し、メールにより令和元年度 3 月末まで、卒業・修了者に対してアンケート調査を実施した。1988 年～2020 年卒業あるいは修了者から、49 名の回答が得られた。回答者のなかには、自治体やコンサルタントに努める方が 60%を占めており、修士課程の修了者は 47%、学部卒は 41%を占めている。講義に関して、66%の回答者から達成できたという回答があり、実験・演習に関して、60%の回答者が達成できたと回答した。講義や演習などは仕事上で役に立った回答者は 74%を占めている。概ね良い結果であった。改善の要望として、理論知識だけではなく、将来の仕事選択のために、志望の分野に関する社会の知識をもっと教育に入れるべきという意見が多かった。今後、シラバス点検などの際に、基礎力養成の教育内容に合わせて社会知識の内容の取り入れなど、講義の内容を検討する材料となると思われる。
達成度： 改善要望として、理論知識だけではなく、将来の仕事選択のために、志望の分野に関する社会の知識をもっと教育に入れるべきという意見が多く上がった。現在、初学者ゼミ I において、民間	

企業及び研究機関で働く卒業者等からの社会的知識の提供を行っている。それらに加えて、一部の演習において実地見学と関係者からの社会的知識の提供機会を増強する計画していたが、コロナ禍の前期の講義演習のオンライン化により、実施できなかった。それらの機会の増強については、次年度以降への引き継ぎ事項としたい。

○生命理工学類（自然システム学類）、自然システム学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	学類改組したばかりのため、今後アンケートが集まったり、卒業者が出るなどしてから、組織的な取組の計画を行いたい。既存の学類や専攻については改組によってバラバラとなってしまうため組織的な取組は出来ないため、各コース単位での取り組みに任せる。
達成度： 生命理工学類 1 期生がまだ 3 年であり、授業が一巡していないため、組織的な取組は行っていない。令和 3 年度には、卒業者に対する初のアンケート調査を実施する予定であり、実態を正確に把握できるような項目の検討が必要になる。	

○医学類

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	FD 講習会を令和 2 年度も継続して実施するが、アクティブ・ラーニングの向上、教育方法の改善を図るため、全教員に対して 1 回以上の参加を義務付けることを検討している。また、年 3 回程度のカリキュラム評価委員会を実施し、委員会にてカリキュラム評価を行い、その結果を各科目責任者にフィードバックするだけでなく、科目責任者に評価結果に対する意見も聴取して、良いカリキュラムとなるよう取り組みを行う。
達成度： 「医学系 FD 研修会」を毎月（4 月、8 月を除く）計 10 回実施した。参加者数は各回 20～50 名。カリキュラム評価委員会を 8 月、11 月、3 月計 3 回実施した。「科目別カリキュラム評価」を実施し、評価内容を授業担当者にフィードバックした。令和 2 年度は計 16 科目の評価を実施した。以上により、予定した計画は達成されたと判断する。	

○薬学類・創薬科学類、創薬科学専攻、薬学専攻

【検証事項 2 (令和元年度)】 予定・課題	（薬学類・創薬科学類） 平成 30 年度から導入した新 AO 入試による研究志向の優秀な入学に対し、令和元年に引き続き効果的な教育を推進するとともに、その教育効果がその他の学生にも波及するよう、ケーススタディを重ねる。 （薬学専攻・創薬科学専攻） 薬学専攻・創薬科学専攻においても、こうした学生を中心とする研究意欲・能力の高い学生が進学し、さらに効果的に能力を伸ばせるよう、カリキュラムや教育方法の改善について検討を行う。
達成度： 将来の進路が明確で意欲のある優秀な人材を発掘し、進路に特化した高度な教育を早期から行うため、平成 30 年度入試から導入した新たな AO 入試合格者の「早期ラボ・ローテーション」を実施中であり、早期からの研究力の涵養を促している。また、一般入試合格者が博士一貫プログラム生として「早期ラボ・ローテーション」に参加しており、他の学生への波及効果が出つつあることを確信している。 大学院進学者のモチベーションを上げるべく、薬学系独自の奨学金制度により、創薬科学専攻（博士前期課程）特別選抜による入学、博士課程及び博士後期課程在学者への支援を行っている。	

○保健学類、保健学専攻

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケートの回答率向上のための対策が必要である。ただし、COVID-19 感染症による社会情勢の影響もあり、アンケート回答協力も十分にいきわたらなかった可能性は高く、低い回答率に基づく結果の分析は難しい。代替方法（ミニッツペーパーなど）により、学生の反応や理解度の確認に、さらに努める必要がある。学生個々への対応・学習ニーズの把握に努め、国家試験合格率向上を目指していく。
達成度： 学士課程、博士前期課程及び博士後期課程において、授業評価アンケートの協力依頼は担任や指導教員から、また保健学務係を通して全学生には行ったものの、回答率は低い傾向にあった。また今年度は COVID-19 感染症の影響で、各教員が講義実施において苦労したものと思われるが、2 回の本学類 FD 研修会を通して、オンラインによるハイブリッド講義等に関する情報を提供し、アフターコロナを見据えた新たな講義形式等の提案ができたものとする。またアクティブ・ラーニングの取り組みについては、オンラインによる高大接続プログラム・講義に組み込み、昨年と同様に 5 専攻横断型の講義の充実に繋がったものとする。今後は、学生自身が自律的に専門職者としての意識・知識の向上に努め、さらにチーム医療を実践できる医療従事者の育成に努めていきたい。	

○人間社会環境研究科

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	授業科目等に問題があるという回答がなかったため、授業方法の改善等は行わなかった。ただし、GS 科目については授業のレベル（専門性及び英語能力等）をどう設定するか、という課題が発見されたため、カリキュラムの見直しを検討することとした。
達成度： 令和2年度は、COVID-19 感染拡大によって、授業を遠隔で実施することになったため、大学院における遠隔授業の改善という喫緊の課題が生じた。このため、GS 科目の授業のレベル（専門性及び英語能力等）をどう設定するか、という課題とそれに対応するカリキュラムの見直しの検討については、手を付けられなかった。	

○医薬保健学総合研究科（修士課程・医学博士課程）

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	昨年に引き続き、シラバスの記載内容の改善を図る。また、FD 講習会を継続して実施し、アクティブ・ラーニングの向上、教育方法の改善を図る。
達成度： 新型コロナウイルス感染症拡大を防止する観点から、令和2年度の授業は一部を除きオンライン（オンデマンド）で実施されることになったため、従来の教育方法とは異なった新たな対応が求められることになった。医学系では、学類、研究科合同で定期的に FD 研修会が開催され、変更に対応した研修が行われた。	

○先進予防医学研究科

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	昨年に引き続き、シラバスの記載内容の改善を図る。また、FD 講習会を継続して実施し、アクティブ・ラーニングの向上、教育方法の改善を図る。
達成度： 新型コロナウイルス感染症拡大を防止する観点から、令和2年度の授業は一部を除きオンライン（オンデマンド及び遠隔対面）で実施されることになったため、従来の教育方法とは異なった新たな	

な対応が求められることになった。定期的に行われた医学系FD研修会を通じて、オンライン授業に対応した教育技術の周知や教育方法全般の改善を図った。また、シラバスの点検を行い、主にアクティブ・ラーニングや英語対応に関する記載内容の改善を図った。

○新学術創成研究科

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	授業評価アンケート及び令和元年度修了者に対するアンケートの分析結果から、令和2年度のFDの課題を設定し、FD研修会の実施を通して授業内容や方法についての検討を行い、教員の教育能力の向上に向けた対応を行うこととした。
達成度： 令和2年度に博士前期課程・博士後期課程を同時に設置したナノ生命科学専攻において、初めてのFD研修会を令和3年1月7日に開催した。また、令和2年度に博士後期課程を設置した融合科学共同専攻においては、昨年度に引き続き北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科融合科学共同専攻との合同FD研修会を令和3年3月11日に開催した。研修会では、各専攻における課題を基にテーマを設定し、授業内容や方法についての検討を行い、当初の目標を達成した。	

○法学研究科（修士課程・専門職学位課程）

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	【法務専攻】授業評価アンケートの結果を、全ての専任教員に配布し、教員はアンケート結果に対する感想等を書面でFD委員会に提出する。提出された書面も、全ての専任教員に配布し、FD研修会の資料として共有する。 FD研修会で話し合った結果、次のようなことが合意された。 ・複数教員で担当する科目について、答えにくいという指摘が学生から寄せられたため、教員ごとに答えられるように複数枚のアンケート用紙を配付することとした。これにより、より正確に各教員の授業への評価が可視化されることになる。 ・「標準修了年限での修了率」の公表が求められ、原級留置者が多い状況に対して、厳しい目が向けられ得るものの、必要な能力をつけていない者を進級・修了させることは、司法試験合格者を下げることににつながるため、避けるべきであるとの結論に達した。
達成度： 【法務専攻】すべての項目について、十分に達成された。さらに、授業評価アンケートの対象科目を増加（受講人数の少ない選択科目についても設定し任意回答とした）、非常勤講師にもその結果が確認できるようにした。	

○教職実践研究科

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	「実践研究とは何か」をテーマに、2020年度中に3回のFD研修会を開催する予定である。研修会はラウンドテーブル方式で行い、学生や外部講師の参加等も予定している。
達成度： 「実践研究とは何か」を主テーマに、今年度のFD計画案を検討立案、決定し、それに基づき3回のFD研修会を開催した。FD活動の一環である本研究科学校マネジメントコースの公開研究授業には学習デザインコースの学生も参加し、大学院学生も含めたFD活動の展開も試みた。今年度最終の第3回FD研修会では、1年次生の実践研究中間報告について、及び2年次生の最終報告について、ラウンドテーブル方式で研修会を実施し、本年のFDテーマの総括も行った。コロナ禍により外部講師招聘には至らなかったものの、本格的なFD活動の礎となる1年となり、大いに評価できると思われる。	

○国際機構

【検証事項2 (令和元年度)】 予定・課題	—
達成度： これまで同様、定期的な教員の打ち合わせ（講師会）等を通じて、教育方法の改善に努めた。特に今年度は新型コロナウイルスで授業のやり方が大きく変わったため、部局の研修会のみならず、全学的な研修会にも参加し、創意工夫しながら教育改善に取り組んだ。	

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

金沢大学では、全学統一の様式(後掲:4 資料編「金沢大学シラバス様式」参照)を用いて、シラバスを作成している。

【検証事項1】令和2年度の実施状況

1)シラバスの点検①(アクティブ・ラーニング関連)

【令和2年度の自己点検評価】シラバスの改善を行った(◎), 点検が完了した(○), 一部点検した(△), 点検を計画していない(×)			
部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
人文学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスに関する周知と点検作業そのものはAL関係も含めて教務委員会によって実施され完了している。ただ、FD委員会との協働が必ずしも十分とは言えない状況にある。
法学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	6月のFD研修会や、12月のFD委員によるシラバス・チェックに際して、特にオンラインの授業で、学生の課題提出や授業中の発表等について、シラバスに銘記したうえで、実施するよう依頼した。
経済学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	FD委員会委員3名が分担して、全員のシラバス記載内容のチェックを実施し、ALの記載状況を確認し、改善を求めた。
学校教育学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	富山大学との共同教育課程設置のため、シラバスの作成は学類長や教務・学生生活委員会が主体となり、アクティブ・ラーニング型授業の実施に関し、シラバス上に具体的に反映されているか確認した。シラバス全体も不十分なもののについては、11専修や各教員個別に修正を依頼した。
地域創造学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスにおける必要事項の入力、特にアクティブ・ラーニングに関する記載について、周知を徹底するとともに、教務学生生活委員会が点検作業を行ない、不十分なシラバスについては個別に再入力の依頼を行なった。なお、教務学生生活委員会とFD委員会の協働が十分であるとは言えない部分もあり、改善の余地があるとは考えている。
国際学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☒ その他	FD委員会が中心となり、シラバス内容から見てAL的内容を加味する記述が可能な授業については、そうした言及を行うよう依頼した。ただ、昨年は遠隔授業が主体となり、これまでとは異なる観点からのALへの取り組みが必要となった結果、AL化が期待したほど進まなかった点も付記しておきたい。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	新たにアクティブ・ラーニングを導入する科目について重点的に点検を行った。
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	各教員がシラバスを確認し、履修者からアクティブ・ラーニングの内容が具体的に理解できるような内容となるよう点検・改善を行った。
機械工学類 機械科学専攻	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	学類長をトップとするシラバス点検ワーキンググループ(副学類長、コース長、FD委員、教務委員)を構築し、学類の全教科についてシラバス点検を行い、AL関連の記載について確認した。履修者を主体とした表現にし、またALができる記載になるように徹底した。
フロンティア工学類	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	CLA(AL)科目について、CLAに関する記載を確認した。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☒ その他	シラバスに関しては、ループリット、成績評価基準に問題がまだ散在していたので、教務委員と協力して点検を行った。ALに関する記載に関しては、学類会議で周知した。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	地球社会基盤学類土木防災・環境都市コース関連科目におけるアクティブ・ラーニング関連科目におけるシラバスへの記載について、学系教員に周知した。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	学類会議において、教務委員から全教員に周知した。その後、教務委員がシラバスの内容を点検し、不十分な場合、修正を依頼した。
医学類	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	各年度2回(上半期・下半期)、各8科目程度ずつ「科目別カリキュラム評価」を実施しており、評価内容を授業担当者へフィードバックする。令和2年度は計16科目の評価を実施した。 当該評価の内容に、シラバスについて学習方法が明示してあるか。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れている場合、その内容(ディスカッション、課題解決型学習、小テスト等)を記載してあるか。和文・英文が併記してあるかを確認し、不十分である場合、評価内容とともに授業担当教員へ通知している。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	記載方法を示し、各自点検を行った。アクティブ・ラーニングを取り入れた授業については、「授業の内容」及びフィードバックの方法(具体的な学習到達目標、総合評価割合等)の中でその旨を記載した。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバス入力期間での周知のほか、科目担当教員によりセルフチェックを行い、実施した。また、学類会議において、ALに関する記載を徹底するよう依頼した。
人間社会環境研究科	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	令和2年11月から12月にかけて、すべての授業のシラバス記載状況を確認するなかで、ALの記載状況についても確認を行った。
医薬保健学 総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスの記載内容について確認を行い、評価において、授業への貢献度や積極性を加えることとした。これにより、アクティブ・ラーニングの実施確認がなされることとなった。
先進予防医学研究科	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスの記載内容について確認を行い、評価において、授業への貢献度や積極性を加えることとした。これにより、アクティブ・ラーニングの実施確認がなされることとなった。
新学術創成研究科	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	学務課教務係作成の「シラバス入稿要領」を研究科の教員に送付並びに各専攻会議の議題(報告事項)として取り上げ、周知を行った。
法学研究科 (修士課程・ 専門職学位課程)	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】ALや授業目標などについて学生視点でシラバスを記載することを教員に促すとともに専攻長がシラバスをチェックした。 【法務専攻】分野ごとの教員間でのチェック、教務・学生委員会によるチェックをした。そもそも法科大学院ではソクラテス・メソッドによる双方向授業を従来から行っているもので、特にALという言葉は使わないが、実態として記載されている。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
教職実践研究科	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	本研究科の授業は、既に全科目ALが基軸である。シラバスでもその旨の記載されていることを、教務・FD委員会にて確認した。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☒ その他	GS科目企画部会委員が各群の科目(自身の科目は他の教員に依頼)を点検し、点検結果を企画部会長あてに報告した。今年度は新型コロナウイルス問題により年度開始後に授業実施内容の大幅な変更を迫られたが、各科目で対応を進め、大きな混乱や学生からのクレームは生じなかった。しかし改善まで至ったとはいえないため自己評価を「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	新型コロナウイルス問題によりシラバスの変化をせまられ、各科目でオンデマンド形態であってもチャット機能を活用するなどして、ALをできる限り授業内で活用するシラバスに改変した。後期は特にベストミックスを念頭に、各企画部会、各部会委員、非常勤講師が一番効果的なシラバスを作成し、対策を取ってALを実施したため、自己評価を「◎」とした。
国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	◎	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	対象となる科目は、部門教員分担任科目である学域GS科目「大学・学問論」のみとなる。シラバス案作成にあたり、従来通り、部門教員5名ほかにALに関する記述を入れるように依頼した上で、部門長が各自から提出された案を確認した上で入力しておりシラバスの改善を行ったと判断した。
国際機構	○	☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	学期の開始前に行われる講師会等において記載の周知を図り、プログラムコーディネーターが記載状況をチェックした。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

1)シラバスの点検②(SGU関連)

【令和2年度の自己点検評価】 シラバスの改善を行った(◎), 点検が完了した(○), 一部点検した(△), 点検を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
人文学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスに関する周知と点検作業そのものはSGU関係も含めて教務委員会によって実施され完了している。ただ、FD委員会との協働が必ずしも十分とは言えない状況にある。英文での記入も含め、記載が不十分な場合は個別に依頼し、シラバス記載を徹底した。
法学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	研修会やFD委員会によるシラバス・チェックの際に、英文でも各回ごとの授業内容が学生が分かるよう、具体的な項目をキーワードを明示して英語で書くよう周知した。
経済学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	FD委員が分担して、全教員のシラバスをチェックし、英文入力状況を確認した。記載のない場合は、個別に対応を求めた。
学校教育学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	FD・カリキュラム委員会が作成したシラバス点検マニュアルに基づき、教務・学生生活委員会が主体となり、学校教育学類に11専修に対して、チェックおよび入力の周知を行い、英語化率の向上を図った。
地域創造学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務学生生活委員会が、シラバスにおける英文入力について教員に対し周知を徹底し、英文入力チェックを行った上で、不十分なものについては個別に再入力の依頼を行った。
国際学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務委員会を中心に、シラバスの英文入力チェックを行い、適切に実施されていない事例については、個別に改善要請を行った。英語科率についても点検を行い、遅れている事例については、可能な比率向上についての提案を試みている。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	いくつかの科目で重点的にシラバスの点検を行った。
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務委員主導のもと、「授業概要」への授業ごとの概要の記載をはじめとしたシラバスの記載内容の点検を行ない、英文でのシラバス記載を徹底した。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに ☒	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
機械工学類 機械科学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	学類長をトップとするシラバス点検ワーキンググループ(副学類長、コース長、FD委員、教務委員)を構築し、学類の全教科についてシラバス点検を行い、SGU関連の記載について確認した。英文での記入が不十分な場合は個別に依頼し、英文でのシラバス記載を徹底した。
フロンティア工学類	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務委員が中心となって、全てのシラバスで英語の記載がされていることを確認した。
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☒ その他	来年度の英語化率の改善に向け、「英文での入力」と「英語化率の記入」に関して、適切に行うよう学類会議などを通して要請を行った。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	地球社会基盤学類土木防災・環境都市コース関連科目におけるシラバスの英語化状況を網羅的に確認したところ、学系教員担当科目に関しては95%以上、英語化されていることが確認された。また一部、未入力科目について、個別に入力依頼を行った。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	学類会議において、教務委員から全教員に周知した。その後、教務委員がシラバスの内容を点検し、不十分な場合、修正を依頼した。
医学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	各年度2回(上半期・下半期)、各8科目程度ずつ「科目別カリキュラム評価」を実施しており、評価内容を授業担当者にフィードバックする。令和2年度は計16科目の評価を実施した。当該評価の内容に、シラバスについて学習方法が明示してあるか。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れている場合、その内容(ディスカッション、課題解決型学習、小テスト等)を記載してあるか。和文・英文が併記してあるかを確認し、不十分である場合、評価内容とともに授業担当教員へ通知している。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスの記載内容について確認を行い、英文での入力状況を各自チェックした。入力が不完全な授業科目については、担当教員に入力を依頼した。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	和英併記はすでに周知されているが、シラバス入力期間での周知のほか、科目担当教員によりセルフチェックを行い、実施した。また、学類会議において、全教員に記載の徹底を依頼した。今後はさらに英語化率の入力等の改善を進めていきたい。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに ☒	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
人間社会環境研究科	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和2年11月から12月にかけて、すべての授業のシラバス記載状況を確認するなかで、英文での入力状況についてもチェックし、入力の無い科目については、個別に入力を求めるなど改善を図った。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスの記載内容について確認を行い、英文での入力状況をチェックした。入力が不完全な授業科目については、担当教員に入力を依頼した。
先進予防医学研究科	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスの記載内容について確認を行い、英文での入力状況をチェックした。入力が不完全な授業科目については、担当教員に入力を依頼した。
新学術創成研究科	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和2年度新設科目について、英文での入力状況を確認し、一部日本語のみであった科目について、担当教員に入力を依頼した。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】科目別の英語化について再調査するとともに、専攻長がシラバスをチェックした。 【法務専攻】法務専攻はシラバスの和英併記には該当しないため、英語シラバスは義務づけていない(司法試験は日本語で論じることが求められているため)が、入力状況はチェックしている。
教職実践研究科	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	英文入力はないされていることを教務・FD委員会にて確認した。一部記載がない部分についての加筆を依頼した。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☒ その他	GS科目企画部会委員が各群の科目(自身の科目は他の教員に依頼)を点検し、点検結果を企画部会長あてに報告した。新型コロナウイルス問題により年度開始後に授業実施内容の大幅な変更を迫られたためシラバスの英語表記は対応に時間を要したが、大きな混乱や学生からのクレームは生じなかった。しかし改善に至ったとまではいえないため自己評価を「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	以前から、ほぼ全部の授業において、英文でのシラバスは作成されている。点検も行っている。よって自己評価を◎としている。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに ☒	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	対象となる科目は、部門教員分担担当科目である学域GS科目「大学・学問論」のみとなる。英文でのシラバス案作成にあたり、従来通り、部門教員5名ほかに個別に英文情報提供依頼を行い、その後、英文記述について検討の上、部門長が各自から提出された案を確認した上で入力しており、シラバスの改善を行ったと判断した。
国際機構	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスの英文化についても講師会等で入力の周知を図り、プログラムコーディネーターが入力状況をチェックした。しかしながら、日本語の授業の英語化率については、「日本語技能を向上させる」という授業の性質上、なじまない。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

【検証事項1】授業評価アンケート及び卒業者に対するアンケートの結果を、授業方法の改善のために、どのような1)授業評価アンケート

【令和2年度の自己点検評価】授業・カリキュラムの改善を行った(◎), 分析・共有を行った(○), アンケートの実施のみ(△), アンケートを計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
人文学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	データを整理し、授業科目の属性とアンケート項目間の関連をFD委員会で分析した。科目全体でのアンケート結果を前年度と比較し、FD委員会で報告書を作成し、公表した。前年度との比較から、学生の授業時間外学習について改善傾向にあることがわかった。オンライン授業の増加によって、授業評価にマイナスの影響がないことを確認した。今後、オンライン授業の特性を効果的に活かした、さらなる授業改善方法を令和3年度中に開発し、学類内でFD研修会等を通して共有する。
法学類	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	4月の学類会議でアンケート結果を共有し、分析した。
経済学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業アンケート結果は、各教員のアカンサスポータルに集計結果として適宜報告されるため、FD委員会としては、各教員に対し、その結果を参考にして次年度に向けた授業改善を呼びかけている。例えば、予習復習の時間が1時間未満と回答した割合が令和元年度は約66%であったが、予習復習の具体的な事項を各回で示し、自分の意見をもって授業に臨むよう指示するなどの工夫を行った結果、令和2年度は1時間未満と回答した割合を約38%弱まで減少させることができた。このように、分析結果を授業改善に役立てている。
学校教育学類	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	各授業担当教員に、授業評価アンケートの結果を自己点検し、今後の授業改善にどのように役立てるかを検討する「リフレクション・ペーパー」への記載を依頼した。また、授業評価アンケート結果は、人間社会学域で一括してWeb公開する予定である。
地域創造学類	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	遠隔授業への対応に追われ、アンケートの実施のみで終わってしまった。令和3年度は、結果の公表を行うとともに、学類での分析を行い、授業評価アンケートを踏まえた授業改善の検討会を実施する。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
国際学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業評価アンケート結果については、学類長・教務委員長・コース長で構成される学類マネジメント会議において、毎回これを分析し改善策につき意見交換を行っている。問題がある授業がある場合には、教務委員長名で指摘を行うことが想定されているが、幸い昨年はその対象となる授業はなかった。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	学類・専攻の科目を対象に、出席状況、目標・ポイントの明示、説明の仕方、授業理解度及び満足度等の質問項目で実施し、その結果をリフレクションペーパーの作成、TAやALAの採用計画策定に活用した。
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	結果を学類内FD研修会の議題として取り上げ、特にアクティブ・ラーニングを促す授業設計における指針として活用した。
機械工学類 機械科学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業評価アンケートの結果は、各教員が確認できる状況である。それに加えて、初めてのオンライン講義に対する学生の授業評価を把握するために、昨年度と今年度のQ1に関する授業評価アンケート結果を比較する資料を作成し、学類会議で紹介し、さらに所属教員に配布した。学生の理解度や満足度は昨年度とほとんど変わらず、また、予習・復習時間が増加したことが大きな変更点であった。これらの結果を踏まえて、Q2以降のオンライン講義の改良を各教員が行った。
フロンティア工学類	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	現在、新学類の一期生が3年次であり、専門科目では多くの新科目の立ち上げ中であり、またコロナ対応もあるので、振り返りよりも目の前の課題を解決することが優先である。状況が落ち着いた段階で、フィードバックができるようにアンケートは継続して実施した。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	コロナ禍によるオンライン、ハイフレックス授業のため、学生のアンケート回答が減少した。そのため学生の回答の負担軽減と担当教員が問題点を把握できるようアンケート項目の見直しについて、理工学域FD委員会の提案に従い、学類で議論し、見直しを行った。アンケート結果の学類としての活用方法については、学類会議で提案をし、現在検討中である。来期審議後、実施する。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業評価アンケートの結果は、各教員がアカンサスポータル上で確認できるようになっている。各教員はその結果に基づき、次年度の授業改善に役立てている。
生命理工学類 自然システム学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	Q1とQ2の授業がオンライン授業であったため、回答率が低下した。Q3とQ4では、回答率が改善したが、それでも多くの授業で50%以下であった。集計結果については、特に問題は見られなかったが、回答率が低いため学生全体の意見が反映されていないため、まずは回答率をあげなければならない。折に触れて教員や学生への周知が求められる。
医学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	アカンサスポータルを利用しWebで実施した。集計結果を科目責任者にフィードバックし、授業方法の改善に役立てている。 また、カリキュラム評価委員会を開催して、前期後期に各10科目前後の科目について、カリキュラム評価を実施しており、カリキュラム評価結果は各科目責任者にフィードバックするだけでなく、科目責任者から結果に対する意見も聴取することにより、改善に役立てている。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	各授業担当教員が授業評価アンケート結果を確認し、履修者からの要望があったものについては、要望に対応して行った授業改善も含めて、回答を薬学Webサイトにて公表した。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	COVID-19感染症の影響で、回答率は低い傾向にあった。今後はさらに学類会議及びFD研修会等において各教員に周知したい。またアンケートの結果については、各科目の担当教員に伝えており、各教員が現状を把握し、必要に応じて改善に取り組んでいる。さらに、授業改善の提案として、令和3年度中に優秀教育教員による講演を予定している。
人間社会環境研究科	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	クォーター毎にアカンサスポータルを通じて実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、特にQ1、Q2は回答率が低くなったことから、オンライン授業が続くようであれば、回収率向上のための方策を検討する必要がある。アンケート結果は、人社環研代議員会で報告され共有されるとともに、科目担当教員にも伝え、各教員において課題を発見し改善を行うよう促した。
医薬保健学 総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 専攻で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・専攻長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他	コロナ禍にあって、通常の対面授業で行っていた授業評価アンケートを実施することができなかったが、オンラインで実施されたLMSコースの授業科目の中で、アンケートが実施される例があった。今後は、対面及びオンライン講義双方において、Webによるアンケートを実施することとし、実施をさらに拡大することを目指す。
先進予防医学研究科	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 研究科で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他	新型コロナウイルス感染症対応により多くの講義で対面授業を見合わせたために、例年、対面で行われる授業(受講者10名以上)の際に実施していた授業評価アンケートについて、実施することができなかった。一方、一部の授業ではオンラインによるアンケートを行った。今後は、オンラインによるアンケートの実施をメインとする予定である。研究科長の確認のもと、科目担当者への返却、担当者間での共有を行い、課題のある科目については授業方法の改善を図る。
新学術創成研究科	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	個々の教員が現状を把握し、必要に応じて改善に取り組んでいる。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】法学・政治学専攻では人間社会環境研究科と同様に一定の受講者数がある科目について授業評価アンケートを実施し、結果をWebサイトで公開することとしている。令和2年度は授業評価アンケート実施対象となる科目はなかった。 【法務専攻】前期・後期とも、授業の中盤および終期にアカンサスポータル上でアンケートを行った。中間アンケートについては、各教員に対し、授業科目についての学生からのコメントへの返答と対応を求め、各委員会に対しても学生から寄せられた意見への対応を依頼し結果を文書で通知している。期末アンケートについては、結果を専任教員にはすべて共有し、各教員にアンケート結果を踏まえた報告書を作成してもらい、FD研修会の検討資料としている。また、複数教員担当科目は教員ごとにアンケートを設定し、選択科目にもアンケートを拡大(任意回答)し、非常勤講師にも自己の担当科目の結果を共有した。連携科目について提供先の大学でもアンケートを実施してもらった。期末アンケートの結果は法務専攻のWebサイトで公表している。
教職実践研究科	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	昨年度まで紙媒体で実施していたが、今年度よりアカンサスポータルを活用して実施するように変更した。結果については、各講義担当者へデータを送付するとともに、各自でも確認可能な状態である。 また、結果については、教務・FD委員会及び、教職実践研究科会議にて共有し、分析を行い、各自で授業改善に役立てた。 さらに、FD活動として行っている公開授業とリフレクションの機会の構築に向けて授業評価アンケートの結果を参照した。
国際基幹教育院 GS教育部門	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 部門で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・部門長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他	アカンサスポータルを利用してクォーター毎に実施した。アンケート集計結果は、授業改善のためのヒントとともに国際基幹教育院Webサイトに公表した。また、授業評価アンケートの自由記述の内容を分類し、その結果を国際基幹教育院Webサイトに公表した。今年度は新型コロナウイルス問題により年度開始後に授業実施内容の大幅な変更を迫られたが、各科目で対応を進めた結果、授業評価は例年以上に評価的な記述が多かった。この内容を整理して構成員で共有し、各授業のさらなる改善に活用できたと考え、自己評価を「◎」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 部門で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・部門長が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	アカンサスポータルを利用してクォーター毎に実施した。アンケート集計結果は、国際基幹教育院Webサイトに公表した。今年度は、新型コロナウイルスの影響で、授業形態が大きく変わったため、前年度との比較がどこまで妥当性があるかわからないため、「前年度よりも結果が改善した」は評価していないが、遠隔授業の有効性を詳細に分析して今後の授業づくりに活かしていきたいと思っている。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 部門で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・部門長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	対象となる科目は、部門教員分担当科目である学域GS科目「大学・学問論」のみとなる。部門担当教員全員が学務情報システムに登録されており、授業評価アンケート結果を確認出来た。その上で、部門長が全体の確認を行い、翌年度に向けての課題の共有を行った。
国際機構	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 機構で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・機構長が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	学期の開始前と終了後に行われる講師会等において、担当者には提示した。同時にコーディネーターが全体のまとめを行い担当者間で共有した。なお、講師会には、部局の教務委員および教務委員長が出席している。部局外への結果の公表は行っていない。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取り組み等の実施状況

2) 卒業生に対するアンケート

【令和2年度の自己点検評価】 授業・カリキュラムの改善を行った(◎), 分析・共有を行った(○), アンケートの実施のみ(△), アンケートを計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
人文学類	◎	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アンケートデータを整理し、令和2年度データの特徴をFD委員会、分野主任が分析した。集計結果を前年度と比較し、FD委員会が報告書を作成し、公表した。前年度との比較からプレゼンテーション能力の向上に改善がみられることが分かった。令和元年度のアンケートの分析結果を具体的な改善につなげたと言える。令和2年度の調査結果から学類での改善策を令和3年度中にFD委員会が提示する。
法学類	○	☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	4月の学類会議でアンケート結果を共有し、分析した。
経済学類	◎	☐ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	経済学類学位記伝達式開始前に実施した。結果は学類会議で共有し、それをもとに各教員が改善に役立てている。
学校教育学類	◎	☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	平成30・令和元年度の卒業生アンケートの「なるためノート」に関する項目を整理・分析したもの及び、令和2年度の卒業生アンケートの結果の報告を、令和2年度学校教育学類FD・カリキュラム委員会活動報告書に掲載した。なお、令和2年度学校教育学類FD・カリキュラム委員会活動報告書は、令和3年5月頃に学類のWebサイトにおいて学内公開する予定である。
地域創造学類	○	☒ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	卒業生アンケート質問項目を以前のものから大幅に修正して実施した。修正により学生が回答しやすくなったこと、回答期間を長めに設定及び学位記授与式当日にもアンケート回答を依頼したため、回答率の向上につながった。しかし、まだ向上させる余地はあると考えている。アンケート結果は所属教員で共有した。
国際学類	◎	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	授業評価アンケート同様、学類マネジメント会議における協議として取り上げることとなっている。例年回答のあった卒業生からは、学類の教育内容につき高い評価を得ていることは担当者としても喜ばしい。ただし教員が少ないため、授業のバリエーションが欠けることをはじめ、時に厳しい注文も付けられている。限られたリソースによって、学生の要求にいかに対応することができるか困難な課題である。またコロナのことも一因となり、本年もアンケートの回収率が4割にとどまったことは反省事項である(とはいえ昨年に比し大幅に改善されている)。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取り組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルを利用した卒業者・修了者学修到達度アンケートを実施し、その結果をリフレクションペーパーの作成、TAやALAの採用計画策定に活用した。
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルを利用した卒業者・修了者学修到達度アンケートを実施し、その結果を学類内FD研修会の議題として取り上げ、課題点の抽出および改善内容に関して議論を行った。
機械工学類 機械科学専攻	○	☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	卒業・修了者アンケート結果を教員に公表し、各項目の中で「1.十分に達成している。2.ある程度達成している」の回答率が80%以下の項目を共有した。学類生においては、「Q6(6)数学および物理学の基礎と応用に重点を置いた、機械の高度化、知能化、ナノテク化に貢献する能力」「Q7(7)新たな工学分野を開拓する能力」が課題であることを共有した。
フロンティア工学類	—	☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	卒業生アンケートは、卒業生がいないので、該当しない。
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	△	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	コロナ禍のために、アンケート回答数が激減したため、データとして活用できなかったが、回答数激減の問題点に関しては、学類内で問題点を共有し、アンケートの回答数を増やすため、各研究室ごとに学生への回答要請を行った。また、アンケート結果に関しては、教務委員・学類長と共有した。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	△	☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	令和2年度の卒業生アンケートは環境デザイン学類の回答率が約4割、自然システム学類地球学コースが約10割、M環境デザイン学専攻が約8割とばらつきがあったが、ほとんどがpositiveな評価であった。今後これらのデータを学類に公開して共有していく。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	○	☐ 学類で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	まだ生命理工学類として卒業生はいない。旧学類の卒業生のアンケート結果を見ると、概ね良好であった。しかし、回答率が50%に達しておらず、学生全体の意見が反映されているとは言い難い。令和3年度に一期生が卒業する生命理工学類においては、適切な設問項目の設定と、回答率を上げることが重要である。
医学類	◎	☐ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	卒業生アンケートに加えて、IRアンケートを実施している。医学教育研究センターにて、IRアンケート結果を分析し医学教育のカリキュラム改善に役立てている。また、教育の向上、研修病院としての附属病院の魅力を高めるために役立てるため、医学類卒業の初期研修医に対しアンケートを実施した。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取り組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	△	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☐ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業生に対するアンケート結果を確認した。回答率は全体で51.0%であり、学習の達成度は94.2%が「できた」又は「どちらかといえばできた」と回答しており、現行の授業内容・方法が学生にとって適切であると分析している。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類学生卒業生アンケートによると、卒業時に身につけるべき知識や能力の達成度について「十分達成している」「ある程度達成している」という回答が80～90%以上を占めている。専攻により、一部下回る項目があるがおおむね達成していると考えられる。
人間社会環境研究科	◎	☒ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 研究科で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学位記伝達式の日実施し、博士前期課程38名中24名(回答率63.2%)、博士後期課程6名中4名(回答率66.7%)から回答を得た。集計結果は、代議委員会にて報告され、課題について議論が行われた。
医薬保健学 総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	○	☐ 専攻で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・専攻長が確認を行った。 ☒ 専攻で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルにて修了生アンケートを実施した。回答内容について研究科長が確認し、研究科内で課題を共有した。
先進予防医学研究科	○	☐ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 研究科で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルにて修了生アンケートを実施した。研究科長が確認し、研究科内で課題を共有した。
新学術創成研究科	○	☐ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 研究科で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	個々の教員が現状を把握し、必要に応じて改善に取り組んでいる。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取り組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
法学研究科 (修士課程・ 専門職学位課程)	◎	☒ 専攻で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 研究科で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】令和元年度の卒業者に対するアンケートについて教員に結果を周知し、アンケート評価を検討するFD研修会を3月に開催し検討する。 【法務専攻】修了者アンケート(学習成果自己評価アンケート)を実施した。修了者の数が少なく、かつ、回答内容は良好であったため、特に対応の必要がなかった。司法試験の勉強中の修了者に対しては、SAとして在学生の学習を援助する代わりに自習室や図書室の利用を認めており、在学中のアドバイス教員が引き続き定期的に面談を行って状況を把握し、要望等があれば情報を共有し改善を図っている。
教職実践研究科	◎	☒ 研究科で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・研究科長が確認を行った。 ☒ 研究科で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	結果については、教務・FD委員会及び、教職実践研究科会議にて共有し、分析を行い、各自で授業改善に役立てた。 特に、現職大学院生がM2段階で実践研究を進める上で活かすことのできる内容を考え、それを反映した授業・カリキュラムの構築に向けて卒業者アンケートの結果を参照した。
国際機構	○	☒ 学類で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長が確認を行った。 ☒ 学類で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	国際機構で開講する短期プログラムは、プログラム終了時にプログラム改善のための評価アンケートを行い、担当教員間で共有し分析を行った。

【検証事項2】検証事項1の授業評価アンケート及び令和2年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和3年度に行われる教育方法の改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画

部局名	組織的取組の計画
人文学類	令和2年度の授業評価アンケートから、学生の授業時間外学習について改善傾向にあることがわかったので、学生の時間外学習をさらに向上させるために、オンライン授業の実施によって培われたノウハウを活かす。このためにFD研修会を開催し、学類教員の教育能力向上を図る。また、令和2年度の授業評価アンケートからは、「今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につける」点での評価向上が課題であることが確認されたので、FD委員会で対応策を検討し、FD研修会等で学類教員に提案を行う。
法学類	高評価を得ていることから、現在遂行中の法学研究科との連携強化等の着実な遂行を図る。
経済学類	今年度はコロナ禍のため、オンライン授業が基本となった。その影響や問題点をFD研修会などで洗い出し、改善に向けて検討していく。
学校教育学類	令和2年度の卒業生アンケートは、新型コロナウイルス感染症感染防止のために学類毎の学位記伝達式が短縮開催となったことから、アカンサスポータルから事前に回答することを予告し、学位記授与式当日のその場にてアンケートを実施した。例年を大きく上回る回収率により本アンケート結果の解釈としては、学類の学修成果に基づく学習状況についての自己評価において全ての項目で十分に達成しており、教員養成という本学類のミッションを達成できたのではないかと考えられる。なるためノートについては、コロナ禍における実施の模索があったことから、次年度以降更なる対策を講じる必要性が感じられた。
地域創造学類	令和3年度は、授業評価アンケートの結果の公表を行うとともに、学類での分析を行い、授業評価アンケートを踏まえた授業改善の検討会を実施する。また、卒業生アンケートのデータ分析を行い、現在検討中である学類新カリキュラムに活かすこととする。
国際学類	昨年度充分に取り組むことができなかった「〈英語〔外国語〕を学ぶ〉から〈英語〔外国語〕で学ぶ〉へ」の学生の意識変化を促すことを狙いとした、授業変革についてFD研修会における議論等を通じ教員の意識変革を図る。加えてまだ限定的なものにとどまっている、教員間の授業の相互参観の制度化と、それに基づく相互批評の場の設定を実施したい。
数物科学類 数物科学専攻	授業評価アンケートおよび卒業・修了生アンケート結果から、学類の重要な基礎的科目の理解度に対する自己評価の改善がさらに必要と考えられたので、それらの科目に対するTAおよびALAの採用計画策定に取り入れるとともに、学生の基礎力向上のための教育方法の検討を行っている。
物質化学類 物質化学専攻	授業評価アンケート結果について、理工学域 Web サイトにて公表している。 授業評価アンケートに対する教員の対応策の文書化については、各教員にリフレクションペーパーの作成及び保管を義務付けている。 これらの内容をもとに、学類内において毎年FD研修会を開催し、アンケ

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取り組み等の実施状況

部局名	組織的取組の計画
	ート結果を踏まえた教育方法の改善について議論している。
機械工学類 機械科学専攻	Q1 ではオンライン講義に対する授業評価アンケート結果は概ね良好であったが、後期になるにつれて授業評価アンケート結果は少しスコアを落としている傾向もあった。そのため、授業評価アンケートが良好な講義の取り組みを学類 FD 研究会で紹介するなどして、令和 3 年度に再びオンライン講義をする必要になったときに教育方法が改善できるように組織的に取り組んでいく。
フロンティア工学類	今年度、第 1 期生が卒業となるので、卒業生アンケートを新たに作成する予定である。また、学年進行の完了に伴い、カリキュラムの見直しが予定されているので、授業評価アンケート結果も含めて、学類全体で議論を開始する。
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	コロナ禍におけるオンライン授業の影響のため、アンケートの回答者数が十分取れていない問題が発覚した。アンケートの回答者数を確保するための対策(アンケート項目の変更、回答率向上の声かけ)を実施したが、集計結果の分析に従った学類内で統一した指針を提示できるレベルとはならなかった。 令和 3 年度は、アンケートの回答者数の十分な確保と、アンケート結果の分析結果の学類内での共有を行うことを目指す。また、それらの分析結果や授業評価アンケートの結果を受け、各教員が改善目標の設定とその実施状況を評価する仕組みを、LMS コースを活用し用意し、教育方法の改善など教員の教育能力の向上につなげることを目指す。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	地社 4 年次科目のシラバスの確認。授業参観の実施。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	授業評価アンケートと卒業・修了生アンケート、ともに集計結果は概ね良好であった。しかし、回答率が 50%に達しておらず、学生全体の意見を反映しているとは言えない。令和 3 年度では、回答率を上げることが求められる。学類内で改善方法を検討したい。 令和 3 年度は、生命理工学類 1 期性が 4 年次となり、初めての卒業生を送り出す年である。卒業生アンケートでは、学生からの回答を適切に評価でき、結果を今後活かせるような質問項目を設定しなければならない。この点も、令和 3 年度の課題である。
医学類	令和 2 年度に各種アンケートにより集められた医学類カリキュラムに対する学生の意見等を参考に教育方法の改善に努めるとともに、同じく令和 2 年度に実施したフォーカス・グループ・インタビューにおいての 3~4 年次の講義・実習の過密さについての意見に関して、対象学年を絞ったアンケートを実施する予定であり、その結果も合わせカリキュラムの改善を検討する予定。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻	令和 3 年度から薬学・創薬科学類が改組し、薬学類の規模の拡大、医薬科学類の新設に伴い、令和 2 年度に引き続き、専門知識と課題探求能力、さ

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取り組み等の実施状況

部局名	組織的取組の計画
薬学専攻	らに国際感覚と倫理観を有する学生を育成する。令和3年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。
保健学類 保健学専攻	今年度は、COVID-19感染症による影響もあり、アンケートの回答協力が十分にいきわたらなかった可能性が高く、低い回答率となった。今後の回答率向上のための対策としては、ミニッツペーパー等の代替方法やオンラインを利用した学生の理解度の確認などの提案を含め、今後さらに個々の対応・学習ニーズの把握に努め、国家試験合格率向上を目指していく。
人間社会環境研究科	授業評価アンケート等における学生の評価は各項目について概ね好評で喫緊の改善点は見いだせなかった。授業評価のアンケート実施対象が受講生5名以上の授業となっているため、少人数の授業の受講生の声を、プライバシーを尊重しながらいかに吸い上げるか、また改善につなげていくか、今後の課題であるが、令和3年度は、具体的な回答を引き出せるようアンケートの質問を変更し、反省点を担当教員同士で共有できるように改善していく。
新学術創成研究科	アンケート結果を専攻会議・研究科代議員会等で共有し、評価の芳しくない結果となった項目について鋭意対策を検討すると共に、アンケートの分析結果から、令和2年度のFDの課題を設定し、FD研修会の実施を通して授業内容や方法についての検討を行い、教員の教育能力の向上に向けた対応を行うこととする。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	コロナ禍への対応により、オンラインで授業が行われたことで、渡日ができない外国人留学生が受講することができたり、これまで対面授業の際に受講が難しい社会人学生の受講が可能となったりするなど、有用性がみられた。今後、オンラインコンテンツを増やし、充実させ、有効活用することを目指す。
先進予防医学研究科	新型コロナウイルス感染症対応によりオンライン授業（遠隔対面など）の割合が増加したことで、渡日できない外国人留学生が受講することができたり、これまで対面授業の際に受講が難しい社会人学生の受講が可能となったりするなどの教育効果を認めた。 効果的なオンラインコンテンツ（講義ならびに実習）を増やし、有効に活用するために、今後もFD講習会を継続実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。
法学研究科 (修士課程・ 専門職学位課程)	教員相互の授業参観、弁護士による授業参観、FD研修会、意見交換会、合同FD（照会事項3、5、6に記載）
教職実践研究科	昨年度の授業評価アンケート等をもとにして、教職実践研究科におけるFD活動を年3回計画している（公開授業とそれをもとにした授業研究会（7～12月）、及び実践研究報告会における大学院学生の発表に関する検討会（1～2月））。このほか、必要に応じてミニFDを実施する予定である。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

【検証事項3】教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)

【令和2年度の自己点検評価】 授業改善を行った(◎), 授業参観を実施した(○), 授業参観を計画している(△), 授業参観を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数「△」又は「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
人文学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	・対面で開講されている「中国明清時代史演習A」を公開授業とし参観を実施した(令和2年12月21日)。 ・前期開講のオンデマンド型授業である「フランス文学史A」について、人文学類の参観用LMSコースを作り、授業資料をアップロードし、学類の教員が自由に参照できるようにした。
法学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	対面＋オンライン＋オンデマンドの授業を先駆的に実践している教員の授業を実例として参照しながら、授業改善についての協議を続けた。
経済学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	新型コロナ禍の教員相互の授業参観は実質的に不可能であった。しかしながら、遠隔授業の方法などをFD用の掲示板を用いて情報交換ができたので、相互に適切な遠隔授業の運営方法を検討することができた。
学校教育学類	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	今年度のQ4において、教育基礎専修の授業をFD研究授業として公開し、改善に向けた取り組みを行う予定であった。しかし、12月中旬に人間社会学域において新型コロナ・ウイルスの感染者が出た影響と、大学共通テストのため講義室が使用できなくなったことにより、急遽オンライン授業となり実施は困難な状況となった。学校教育学類FD委員会にて協議し、今年度の実施見送りを判断し、来年度に2回分の公開授業を行うことを決定した。
地域創造学類	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	パイロット科目を設け、授業カタログを作成したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実際に授業を公開した形での授業参観はできなかった。しかし、FD研修会を開催して、遠隔授業に関する意見交換を行い、よりよい遠隔授業のやり方について検討した。
国際学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	リアルタイムのオンライン授業ではないが、本学類石黒教員の授業につき動画URL教員全員に周知し視聴できるようにし、それについて意見交換できるようにした。今後リアルタイムのオンライン授業についても、参観体制を構築していくことを考慮中である。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数「△」又は「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	集中講義および特別講義では教員相互の授業参観ができる体制になっている。その他の講義については実施に関する検討を行っているが結論は出ていない。
物質化学類 物質化学専攻	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	学類FD研修会においてモデル授業の紹介及び改善点に関する議論を行っている。オンライン・ハイブド型など講義形態を大きく変えた講義が多くを占めたこともあり、相互参観のシステムが今年度は整備できなかった。令和3年度の実現に向け引き続き、検討を進める。
機械工学類 機械科学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	オンライン講義だったので、複数人で分担する科目については、担当教員は全てのコンテンツをLMSで見ることが可能となり、担当教員間で各講義動画を参観した。具体的な科目は、「工業力学、数学物理基礎リテラシー、材料力学2、機械工学基礎実験、機械工学特別演習A」などである。
フロンティア工学類	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	今年度は、新学類の一期生が3年次であり、専門科目では多くの新科目の立ち上げに対応している。さらに、コロナ禍の影響で、前期はオンデマンドに、後期はハイフレックスに対応する必要がある、教員個々で手探り状態で対応しているのが現状である。現段階で左のような活動をするのは、かえって混乱を深めるだけである。状況が落ち着き次第、検討を始める予定である。
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	教員相互の授業参観として、授業ビデオを学類内に公開する仕組みを構築した。これにより公開する授業の募集や公開した授業の改善点の指摘などが可能となり、本年度は、オンデマンド授業ビデオの一例を学類内で共有した。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	本年度前半はコロナ禍のため、オンライン・オンデマンド型の講義がほとんどのため実施できなかった。また後期も対面型講義は教室内の学生数を減らすなどの感染対策がとられておりかつ状況次第で流動的であったために、教員相互の授業参観の実施を中止とした。新たに授業カタログを作成追加した。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	共同担当の授業において、オンライン授業を相互に視聴できるようにした。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数「△」又は「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
医学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	「科目別カリキュラム評価」対象科目の授業カタログを作成し、科目担当教員や教育委員会委員で情報を共有した。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	授業改善を図るための制度的な取り組みの一環として、「授業評価アンケート」を実施し、効果的な授業方法を図ることを目的に「授業カタログ」を作成している。授業改善や効果的な履修指導につながることを目指している。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	今年度のFD研修会では、オンラインにおける高大接続プログラム・講義、さらにZoom及びWebex等を利用した双方向性によるオンライン講義を紹介し、コロナ禍におけるオンライン講義の工夫等を学ぶ機会とした。来年度においては、さらに優秀教員などを講師として、講義、研究で工夫していることなどの紹介をFD研修会で実施する予定である。
人間社会環境研究科	△	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	R2年度はcovid-19感染拡大による、オンライン授業や登学禁止期間の影響もあり、授業参観を行うことが出来なかった。次年度以降、感染症の状況もみながら、実施すべく計画を行っている。
医薬保健学 総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	△	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	オンラインによる授業LMSコースにおいて、同じ授業科目を担当している他の教員の講義内容を、相互に自由に閲覧する体制を構築した。今後は、関係教員にこれらのコンテンツの視聴を勧め、有効活用する。
先進予防医学研究科	○	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	3大学の担当教員による同日開催の複数の遠隔対面授業をモデルとして、教員相互の授業参観を行った。また、一部のオンデマンド授業(オムニバス形式)では、科目担当教員間での相互の授業内容確認を可能とした。
新学術創成研究科	○	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	融合科学共同専攻において、「異分野『超』体験セッションⅠ(博士前期課程)・Ⅱ(博士後期課程)」の授業を、専任教員に遠隔配信(web EX)にて公開した。

2-3 照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数「△」又は「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	【法務専攻】専任教員には、前期・後期それぞれ2科目以上の授業を参観し、報告書を提出することを義務づけている。報告書は教員間で共有し、FD研修会の資料としている。教員のほかに、弁護士による授業参観も実施しており、意見交換会において実際に参観をした弁護士からの意見を聴取し授業の改善につなげている。
教職実践研究科	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	本研究科の授業は全て研究者教員と実務家教員双方が複数人入り展開しているため、日常的に相互の授業参観機能は持ち合わせている。さらに、今年度は学校マネジメントコース「学校マネジメント研究Ⅱ」を研究授業として位置づけ、本研究科教員・他コース院生に公開し、後日授業検討会を実施した。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	全GS科目において授業開催の情報をメール通知等で共有した。新型コロナウイルス問題のため対面での授業に制限があり、授業参観であるという自覚を伴った活動はほとんど実施していない。系・部門会議も書面附議あるいはオンライン開催であったため会議後の情報交換会も開催できず、通常はそこで実施する授業ノウハウ等の交換も実施できなかった。しかしオンラインFDのなかで遠隔授業のビデオを共有するといった活動はあったため、それを部分的な授業参観であると捉え、実施状況は「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	新型コロナウイルス問題のため、対面授業の参観は断念した。授業カタログを使うなどして、他の教員の取り組みを教員間でシェアできたため、自己評価は○とした。オンラインFDを度々開いて、遠隔授業の問題点やメールによるfeedbackの問題点について話し合えたので、授業参観を補完したと言える。
国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	対象となる科目は、部門教員分担任科目である学域GS科目「大学・学問論」のみとなる。この授業は、ALモデル授業として開講されており、担当教員間での授業参観、学内の全ての教員に対する公開対象の授業である。残念ながら、実際に担当教員以外の授業参観は行われなかったが、授業参観対象として公開しているため◎と判断した。
総合メディア 基盤センター	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	データサイエンス基礎(第一クォーターに実施)については、オンデマンド型遠隔授業のため、授業参観ができなかった。その代わりに、Slack等で情報共有をすることで、授業の改善に努めた。
国際機構	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	今期は新型コロナウイルスのため、対面での授業がなかったため、従来のような形での相互見学授業は出来なかったが、オンラインでの見学を企画し、総合日本語プログラムの開講科目のLMS上のオンデマンド教材については、見学者に開示した(令和3年3月)。また、これにより今後のオンライン授業の改善を図った。(国際機構では令和3年度のQ1は遠隔での授業を行うことになっている。)

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

【検証事項1】令和2年度の実施状況

1) 成績評価基準等の作成・検証

【令和2年度の自己点検評価】 成績評価基準・方法を改善した(◎), 検証・共有を行なった(○), 一部検証した(△), 検証を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容を記載 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
人文学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスへの成績評価基準の記載依頼とその点検は教務委員会が実施し完了している。FD委員会としてより積極的な関与の余地がある。シラバスの点検と修正依頼を通し、各科目の成績評価基準・方法がカリキュラムポリシーと学習成果に対応するよう改善した。
法学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスへの成績評価基準について、FD委員会でその内容を検討し、各教員への周知を徹底した。各回の具体的な内容を、はっきり分かるように書くうえでルーブリックが有用であると示唆したところ、ルーブリックを積極的に活用する教員が以前よりも見られるようになった。
経済学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	FD委員が分担して、全教員のシラバスの記載内容を確認し、個別に改善を求めた。
学校教育学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	FD・カリキュラム委員会において、カリキュラムマップなどを踏まえ、成績評価基準の記載方法が記載されたシラバス点検マニュアルを昨年度作成し周知した。
地域創造学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスへの成績評価基準の記載の周知、記載状況の確認、課題のある成績評価基準の改善の依頼を教務学生生活委員会が実施した。また、ルーブリックの記載も求めたことにより記載率は向上した。なお、FD委員会として、ルーブリックの記載内容の検討が必要である。
国際学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	コロナに起因する遠隔事業の実施により、成績評価基準の客観化が進んだ。授業ルーブリックのシラバスへの導入については国際関係論や英米文化論などその数は少しずつ増加している。作成されたルーブリック(ほとんどは英語のもの)は成績評価の基準につき、極めて具体性に富んだ適切なものである。今回、これを一つのモデルとして学類教員に紹介することにより、授業評価の具体化・客観化がいかなるものであるか、学類における基準が固まった。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	各コースの教務委員と協力をしてルーブリックに関する理解を深めてもらうようにした。
物質化学類 物質化学専攻	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	教務委員主導のもと、シラバスへの記載状況の点検を行い、評価方法の記載を徹底した。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容を記載 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
機械工学類 機械科学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	学類長をトップとするシラバス点検ワーキンググループ(副学類長、コース長、FD委員、教務委員)を構築し、学類の全教科についてシラバス点検を行い、成績評価基準関連の記載について確認し、不備がある場合は個別に改善を求めた。
フロンティア工学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他	全てのシラバスの成績評価基準を確認し、不適当な科目に対し、是正を依頼した。
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	教務委員と協力して、全シラバス点検を行い、改善を行った。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	地球社会基盤学類土木防災・環境都市コース関連科目におけるシラバスの成績評価基準等の作成状況を網羅的に確認したところ、未入力科目が多数確認されたため、学系教員に対して入力依頼を行った。その結果、新規のルーブリック記載済科目数が増加した。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	学類会議において、教務委員から全教員に周知した。その後、教務委員がシラバスの内容を点検した。
医学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	「科目別カリキュラム評価」において、医学教育分野別評価基準に基づいた学生の評価方法について、評価の有用性、学修成果と教育方法との整合性等について評価を実施している。改善等が必要な場合、評価内容とともに授業担当教員へ通知している。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	成績評価基準についてすべての授業のシラバス記載状況を確認し、評価方法及び評価の割合について不備がある科目は、修正を求めるなど改善を図った。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	成績評価基準はシラバスに記入している。科目担当教員によりセルフチェックを行い、実施している。また、学類会議において記載を徹底するよう依頼した。
人間社会環境研究科	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	令和2年11月から12月にかけて、成績評価基準についてすべての授業のシラバス記載状況を確認し、不備がある科目については、修正を求めるなど改善を図った。
医薬保健学 総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスの入力状況を確認し、成績評価基準に出席点が入っているものをすべて修正するよう、依頼を行った。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容を記載 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
先進予防医学研究科	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスの入力状況を確認し、成績評価基準に出席点が入っているものをすべて修正するよう、依頼を行った。
新学術創成研究科	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	学務課教育推進係作成の「シラバス入稿要領」を研究科の教員に送付並びに各専攻会議の議題(報告事項)として取り上げ、依頼を行った。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】成績評価基準において出席点を基準とすることを廃止し、議論への参加態様やプレゼンテーションの完成度など、院生のパフォーマンスを評価基準とすることをシラバスで明記することとした。専攻長がシラバスをチェックし、この点が反映されていないものについては教員にシラバス修正を促した。 【法務専攻】以前より成績評価基準が定められている。SAIについては相対評価を採用しているが、受講生数の減少に対応するために、より厳格にSAの人数を制限する成績評価基準の改訂を行った。
教職実践研究科	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	ルーブリック作成には至っていないが各科目シラバスに明確な評価基準が記載されている。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	厳格・公正な成績評価記述の策定方針に従った成績評価の基準となるルーブリックは各科目において作成済みであり、それに基づいて授業開始した。しかし新型コロナウイルス問題により年度開始後に授業実施内容の大幅な変更を迫られ、一部には成績評価方法の変更も含まれておりルーブリックの改正が必要となった。それら変更についてはルーブリックの更新状況を部会長が確認するレベルに留まり、改善と呼べる状況には至っていないため実施状況は「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	成績評価、レポート課題等において5段階での基準を記したルーブリックは各科目において作成されており、それに基づいて授業を行った。ルーブリック等に関しては、前年度も力を入れて充実させているので、前年度より記載科目は増えていない。よって実施状況は◎とした。
国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	対象となる科目は、部門教員分担任科目である学域GS科目「大学・学問論」のみとなる。シラバス案作成にあたり、従来通り、部門教員5名ほかに成績評価基準を尋ね、部門長が各自から提出された基準を確認した上で入力しており改善を行ったと判断した。
国際機構	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	成績評価基準は従来よりシラバスで明示しているが、今期は新型コロナウイルスにより遠隔での授業となったため、成績評価基準の改定を行った。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

2) 成績評価方法の検証

【令和2年度の自己点検評価】 成績評価基準・方法を改善した(◎), 検証・共有を行なった(○), 一部検証した(△), 検証を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
人文学類	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	例年、自己点検評価(教育)に合わせて、専門科目の成績分布について学類として調査しているが、現在は今年度後期分も含めて教務データをFD委員会で調査中であり、令和3年度中に全教員で共有し検討する予定。
法学類	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	評価基準に従って評価することについて学類会議で、協議した。法務専攻と連動した科目の試験・評価方法の統一を前提に、それらと、他の科目とのバランスをどう取るか検討し、可能な限り、前者に合わせて行う方針を確認した。
経済学類	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績分布については教務委員会が調査を行い、偏った成績分布が見られた場合は、確認をしている。
学校教育学類	◎	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	学校教育学類長や教務・学生生活委員会が中心となり、学校教育学類全体でのシラバスにおける成績評価方法の基準を設け検証し、より具体的な記述になるよう各自改善を行った。
地域創造学類	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布の調査を教務学生生活委員会が行い、その結果を学類会議で共有し、偏った成績分布について意見を聴取するとともに、問題点について検討した。多くの場合、偏ったようにみられる成績分布についての理由を明らかにでき、成績評価の今後の参考になった。
国際学類	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	偏った成績評価分布を示したものについては、教務委員会を主体に従来より意見聴取を行っている。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	ルーブリックを作成した科目についてはその妥当性を検証した。それ以外の科目についてはシラバスの公開により、教員相互の検証が実質的に行われている。
物質化学類 物質化学専攻	○	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	主要科目について成績評価エビデンスとして答案のコピーを収集し、試験実施の厳密化を推進している。 パイロット科目を選定し、授業カタログの作成・公開を通じて成績評価の基準や分布、問題点を検証した。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
機械工学類 機械科学専攻	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	学類会議において、成績分布を意図的に偏らせないように周知した。
フロンティア工学類	△	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	今年度は、新学類の一期生が3年次であり、新しい科目が立ち上がりつつある段階である。来年度以降、カリキュラムの見直しも予定されているようなので、それに向けてデータを蓄積する段階と考える。
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	△	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	成績評価分布に関しては、その評価についての共通認識が学類内で足りていないことが判明したため、学類会議を通して、情報を共有した。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	今年度は成績評価方法の検証ができなかったため、次年度以降に検証を行いたい。
生命理工学類 (自然システム学類) 自然システム学専攻	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	教育方法改善委員が成績評価分布を調査した。
医学類	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	「科目別カリキュラム評価」において、医学教育分野別評価基準に基づいた学生の評価方法について、評価の有用性、学修成果と教育方法との整合性等について評価を実施している。改善等が必要な場合、評価内容とともに授業担当教員へ通知している。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	シラバスに目標達成度を評価するための指標が適切に設定されているかを確認し、学修成果の獲得に係る判断基準を示した。
保健学類 保健学専攻	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	科目担当者により実施している。今後、FD研修会等を通して成績評価方法についても検討していきたい。
人間社会環境研究科	—	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を専攻内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	大学院の場合、大部分の科目の履修者が5名以下であり、分布の偏りについて検証できるだけのデータを得られていないことから現状では、成績評価分布については調査を計画していない。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
医薬保健学 総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を専攻内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	オンライン講義によって実施された一部科目において、複数の担当教員によって協議を行い、アクティブラーニングの視点を含めた評価方法を取り入れた。
先進予防医学研究 科	△	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を研究科内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	一部の授業科目(オムニバス形式)において、複数の科目担当教員によって評価方法を共有した。併せて、成績評価分布を調査・確認し、成績分布の改善に向けた協議を行った。今後は、全科目の成績評価分布を研究科内で共有し、課題がある科目については評価基準・方法の改善を図る。
新学術創成研究科	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を研究科内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布表を抽出し、研究科長が調査した。
法学研究科 (修士課程・ 専門職学位課程)	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を専攻内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	【法務専攻】成績評価分布は専攻内で共有している。成績評価分布が成績評価基準に定めた割合を逸脱するものについては、教務・学生委員会から担当教員に対し、修正を要請している。特に非常勤講師に割合を逸脱するケースが多いので、非常勤講師に対する成績評価分布の共有方法を改善する予定である。
教職実践研究科	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を研究科内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	本研究科の授業は全て研究者教員と実務家教員双方が複数人入り展開しているため、成績評価についても複数人で共有、検討している。教員全員で担当する科目においては研究科全体での分析、検討を行っている。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を部門内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	上述の項と重なるが、今年度は新型コロナウイルス問題に対処すべくオンデマンド授業、一部対面授業、同時双方向授業など多彩な授業形態を一気に模索しながら実施する事態となり、一部は成績評価方法についても模索的に実施した。同一科目であってもクラスにより実施形態が完全オンデマンド型、一部対面授業型など分岐したケースもあり、それらについて成績判定基準を揃えることは今後も検討を続けていくべき課題である。成績評価方法は確認、共有しているが、実施できているのは一部なので実施状況を「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を部門内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価の公平公正に努めるよう担当者に周知し、点検を行った。また、例年どおり成績が偏った教員には意見を聴取した。よって、偏りは小さくなっている。よって自己評価を◎とした。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
国際基幹教育院 高等教育開発・ 支援部門	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を部門内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	対象となる科目は、部門教員分担任科目である学域GS科目「大学・学問論」のみとなる。2019年度と2020年度を比較したところ、Aの比率が14%から約30%へ、Bの比率が24%から約42%へと増加し、C以下の比率が減少していることを確認したため、改善が行われたと判断した。
国際機構	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を機構内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布についての調査を行い、成績評価の公平公正に努めるよう担当者に周知した。

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

FD 研修会のうち、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業に関する内容が含まれる場合は、「SGU」欄に○を記載する。

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
人文学類	1	人文学類 FD 研修会	3 月 17 日	「遠隔授業の実施について」 人文学類遠隔授業サポートチーム担当者による実践報告	人文学類長、人文学類 FD 委員を含む学類専任教員 41 名		
法学類	3	オンライン授業についての学生との連携	6 月 9 日	オンライン授業を行っている教員の実践報告	学類長他 25 名		
		法学類 FD 研修会	9 月 24 日	法学類と大学院法務専攻との連携	法務専攻教員、大学院学生含む 24 名	法学研究科合同開催	
		法学類 FD 研修会	12 月 3 日	アシスタント学生との連携による対面授業のオンライン配信	学類長、法務専攻教員、アシスタント学生含む	法学研究科合同開催	
経済学類	0	—	—	—	—	—	—
学校教育学類	1	実習、実技、実験の遠隔授業について	3 月 11 日	学校教育学類での実習、実技、実験授業を遠隔授業にて行った教員の実践報告	学校教育学類長、国際基幹教育院、堀井委員ほか 50 名		
地域創造学類	1	遠隔授業に関する研修会	6 月 25 日	遠隔授業に関して、問題点の検討やより効果的な方法に関する情報提供、意見交換等を行った	学類長、FD 委員ほか学類教員 22 名		○
国際学類	3	2020 年度第 1 回 FD 研修会	10 月 27 日	同時配信用備品の使用方法研修（講師 学務部学務課 辻谷係長）／国際学類生の遠隔授業アンケート結果	約 12 名		
		2020 年度第 2 回 FD 研修会	1 月 26 日	〈初学者ゼミの意図と方法〉について（講師 古畑学類長）	約 10 名		
		2020 年度第 3 回 FD 研修会	3 月 9 日	新規 GS 科目「異文化体験 準備と経験」を知る（講師国際機関教育院助教 小笠原知子先生）	約 10 名	Web-Ex 等を利用した遠隔方式	○

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
数物科学類 数物科学専攻	1	令和2年度第1回数物FD研修会	9月30日	前期におけるオンライン授業紹介、情報交換 後期に向けて、録画機材の使い方、など	学類長ほか26名		
物質化学類 物質化学専攻	1	物質化学類応用化学コースFD研修会	9月8日	講義の進め方とその工夫、問題点について講演等	20名		
機械工学類 機械科学専攻	2	第1回機械工学類FD研修会	9月29日	各教員がQ1、Q2で身に付けたテクニックを教員間で共有する	機械工学類長、機械科学専攻長、ほか60名	オンライン開催	
		第1回3学類合同FD研修会	11月27日	機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類の各教員がQ1、Q2で身に付けたテクニックを3学類の教員間で共有する	機械工学類長、フロンティア工学類長、電子情報通信学類長ほか120名程度	フロンティア工学類、電子情報通信学類合同開催、オンライン開催	○
フロンティア工学類	1	2020年度理工三学類FD研修会	11月27日～3月26日	理工三学類で集めたオンライン講義テクニック集をLMS上で共有した。	38名	機械工学類、電子情報通信学類合同開催、オンライン開催	○
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	2	令和2年度電子情報第1回FD研修会	10月28日	各教員が実施したオンライン授業のティップス（好事例等）を学類内で共有した	電子情報通信学類長、教務委員計16名		○
		令和2年度三学類第1回FD研修会	11月27日	各教員が実施したオンライン授業のティップス（好事例等）を三学類内で共有した	機械工学学類長、フロンティア工学学類長、電子情報通信学類長ほか計40名	機械工学類、フロンティア工学類合同開催、オンライン開催	○
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	1	地球社会基盤学類FDシンポ	11月1日	学系JABEE-WG委員長から次回JABEE受審にむけての注意事項の共有、及び国際基幹教育院にご協力をお願いし、オンライン講義のつくりにかたとその応用方法について、ZOOMで解説頂いた。	地社学類長、FD委員ほか22名、オブザーバー1名		
生命理工学類 自然システム学専攻	1	生命理工学類FD研修会	10月30日	オンライン授業の問題点とその改善方法	約20名		

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
医学類	10	医学系 FD 研修会	毎月1回(4月, 8月を除く)第2月曜日	アクティブ・ラーニング (特に授業オンライン化に伴う手法), カリキュラムとポリシー, シラバス, 学生支援(メンタルヘルス, 留学生対応)	各回20~50名	医薬保健学総合研究科	○
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻 薬学専攻	2	令和2年度薬学系 新任教員 教務関連研修会	4月8日	■教務全般の説明(カリキュラムについて, 履修について, 成績判定について, アカサスポートルの運用について, 授業アンケートについて, アドバイザー制度について)	薬学学類長, FD委員長 ほか2名	国際基幹教育院の協力を得た。	○
		令和2年度 薬学系(学類・大学院研究教育)FD研修会	12月22日	「On-Line 研究, 教育の進め方」-半年間の経験より学ぶ- ■スモールグループディスカッション ■全体討議	薬学教員49名	全教員に参加義務を課している。	○
保健学類 保健学専攻	2	保健学系 令和2年度第1回FD研修会	11月4日	松原孝祐教授, 板谷智也助教による「オンライン講義におけるグループディスカッションの試み」に関する講演	学類長, FD委員長ほか66名	会議室及びWebexによるハイフレックス開催	○
		保健学系 令和2年度第2回FD研修会	2月3日	杉森公一准教授, 板谷智也助教による「コロナ禍の講義における私の工夫」に関する講演	学類長, FD委員長ほか60名	Webexによるオンライン開催	○
人間社会環境研究科	2	令和2年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	2月8日	「大学院における遠隔授業と研究指導についてのアンケート調査」結果報告とそれに基づく意見交換	研究科長, 小林委員ほか26名		○
		令和2年度第2回人間社会環境研究科FD研修会	3月29日	授業評価アンケート・修了者アンケートの結果分析について	研究科長, 小林委員ほか17名		
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	14	医学系 FD 研修会	毎月1回第2月曜日 (4月, 8月を除く)	アクティブ・ラーニング (特に授業のオンライン化に伴う手法), カリキュラムとポリシー, シラバス, 学生支援(メンタルヘルス, 留学生対応)等	20名~50名	医学類	○
		石川県がん診療連携拠点病院研修会	9月3日, 11月19日, 12月3日, 3月11日(計4回)	北信がんプロが関与して開催されている, 主に研究に関する研修会で, 臨床に関わる教員が受講した。	40名~80名		

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
先進予防医学研究科	1	先進予防医学共同専攻(共同大学院)3大学合同FD講演会	2月17日	今年度は千葉大学が世話役となり、新型コロナウイルス感染症に関する知見と授業への対応について、海外在住の講師によるリモート講演が行われた。	研究科長、FD委員会委員含む12名(本学)	千葉大学、長崎大学合同開催	
新学術創成研究科	2	融合科学共同専攻FD研修会	3月11日	遠隔講義の充実、社会人学生の受入れ、コロナ禍を踏まえた今年度の反省をテーマとした、金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学の専任教員による意見交換	融合科学共同専攻長ほか21名		
		ナノ生命科学専攻FD研修会	1月7日	国際基幹教育院の講師による、オンラインツールを活用した対面授業の設計を行うために必要な基礎的知識と技術に関する講演及び出席者との意見交換	ナノ生命科学専攻長ほか11名		
法学研究科	5	【法務専攻】第1回意見交換会	8月6日	弁護士による授業参観の感想、オンライン下の学習支援について、合宿について	教員11名(専攻長を含む)、弁護士4名、修習生1名		
		【法務専攻】第1回FD研修会	9月15日	前期オンラインでの授業方法、後期対面+配信の授業方法の検討、共通到達度確認試験について、授業アンケートの対象科目について	教員10名(専攻長含む)		
		【法務専攻】第2回意見交換会	1月19日	弁護士による授業参観の感想、オンライン下の学習支援について	教員11名(専攻長含む)、弁護士5名		
		【法務専攻】第2回FD研修会	3月2日	期末アンケートの対象・回答率について、各学年の課題、SAへの指導について	教員11名(専攻長含む)		
		【法学・政治学専攻】第1回FD研修会	3月29日	修了者アンケートの結果について、他大学院と意見交換	法学・政治学専攻から2名(専攻長、副専攻長)、人間社会環境研究科他専攻から複数の教員		

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
教職実践研究科	4	今年度のFD活動の計画案の検討会	8月6日	今年度のFD活動計画案の協議・決定	教職実践研究科長，研究科教員 10名		
		第1回FD研修会	9月24日	公開授業を核とした実践省察型FD活動の実施に向けて	教職実践研究科長，研究科教員 10名		
		第2回FD研修会	11月26日	公開授業の省察	教職実践研究科長，研究科教員 10名		
		第3回FD研修会	2月18日	M1の中間報告及びM2の実践報告を振り返り，次年度の実践研究の充実に向けた課題意識の共有	教職実践研究科長，研究科教員 10名		
国際基幹教育院 GS教育部門	3	GS教育系・第1回オンライン授業FD	7月22日	オンラインでアクティブ・ラーニングを実施する方法，及びオンライン授業コンテンツの著作権上の取扱い（計3件の発表）	30名	国際基幹教育院長，GS教育系，外国語教育系，及び高等教育開発・支援系から参加	
		GS教育系・第2回オンライン授業FD	12月15日	オンラインでアクティブ・ラーニングを実施する方法，オンライン授業と対面授業のハイブリッド授業の実例，及び対面授業にはないオンライン授業のメリットについて（計3件の発表）	25名	GS教育系，外国語教育系，及び高等教育開発・支援系から参加	
		スキルアップセンターFD研究会 （「コロナ禍でのGS科目」として発表）	3月16日	オンライン型のFD研修のメリット及び運営上の問題点について	32名	GS教育系，外国語教育系，及び高等教育開発・支援系から参加	
国際基幹教育院 外国語教育部門	10	第1回外国語教育系FD研究会 （EAP Spring Workshop I）	7月31日	EAP科目令和2年度Q1Q2のオンライン授業に関する実践報告とQ3Q4の授業改善に向けた検討	FDリーダー，ほか 14名		○

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
国際基幹 教育院 外国語教育部 門		第2回外国語教育系FD研究会 TOEIC FD Seminar (Googleを使用した TOEIC オンライン教材作成)	9月18日	TOEIC オンライン教材の作成に使用したツール及びテクノロジーに関する報告	共通教育副委員長, 系長, 部門長, FDリーダー ほか19名		○
		SGU 英語教育に関するFD研修会 (第1回) 「本学における英語教育 ～国際基幹教育院と専門教育をつなぐ～」 「国際基幹教育院における英語教育とTOEIC」	9月24日	国際基幹教育院と専門教育に関する報告	系長, 部門長, FDリーダー ほか15名		○
		SGU 英語教育に関するFD研修会 (第2回) 「国際基幹教育院における英語教育とEMI科目」	12月2日	英語教育とEMI科目に関する報告	系長, 部門長, FDリーダー ほか15名		○
		国際基幹教育院スキルアップセンターFD研修会 「2020年Q1Q2英語と初習言語科目の取り組みについて」	11月9日	外国語教育系EAP代表, TOEIC 準備代表, 初習言語代表によるQ1Q2 オンライン授業の実践報告	FDリーダー, 系長, 部門長, 共通教育副委員長, ほか20名		○
		外国語教育系FD講演会 Corpus approaches to issues in the acquisition of L2 English academic writing	11月20日	早稲田大学の Dr. Randy Appel による講演 (非母語話者学生のアカデミックライティングスキル習得に関わる問題点の克服——コーパスアプローチの視点から)	FDリーダー, 系長, 部門長 ほか9名		○
		外国語教育系FD講演会 Incorporating critical perspectives in the EAP classroom	1月22日	ハワイ大学の Dr. Jayson Parba による講演 (EAP クラスへの批判的視点の導入)	系長, 部門長, FDリーダー ほか12名		

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
国際基幹 教育院 外国語教育部 門		第3回外国語教育系FD研究会【第一部】 「オンライン授業における初習言語科目の対応と模索」(韓国語・ドイツ語・ロシア語)	2月5日	韓国語・ドイツ語・ロシア語科目 Q1 から Q4 までの遠隔授業の実践報告と今後の課題・解決策について議論	高等教育系長, ICT 教育推進メンバー, FD リーダー ほか 21 名		○
		第3回外国語教育系FD研究会【第二部】 「オンライン授業における初習言語科目の対応と模索」(西洋古典語・フランス語・スペイン語・中国語)	2月5日	西洋古典語・フランス語・スペイン語・中国語科目 Q1 から Q4 までの遠隔授業の実践報告と今後の課題・解決策について議論	高等教育系長, ICT 教育推進メンバー, FD リーダー ほか 21 名		○
		第4回外国語教育系FD研究会 (EAP Workshop II)	2月19日	EAP コースの 2020 年度の総括及び 2021 年度の展望	FD リーダー ほか 17 名		○
国際基幹 教育院 高等教育 開発・支援部 門	14	カムタジア, WebClass 説明会	4月9日	PC 画面収録システムであるカムタジア, 及び, 学内標準 LMS である WebClass の利用方法についての説明を行った。	5 名		
		遠隔講義実施説明会 「遠隔授業の進め方(入門編)」	4月10日	オンライン, オンデマンド型の遠隔授業の進め方, オンデマンド教材作成方法等についての説明を行った。	対面 30 名以上, 遠隔 200 名以上		
		FD 研修会 「WebClass の使い方」	6月5日	学内標準 LMS である WebClass の利用方法についての説明を行った。	188 名	総合メディア基盤センター共催	
		FD ランチョン	6月11日	教員の実践報告	11 名		
		FD ランチョン	6月25日	堤敦朗先生(地域創造学類), 牛島 顕先生(数物科学類) から遠隔授業実践の報告があった	28 名		
		FD 研修会 「Zoom / Webex / Google Meet を使った授業」	6月26日	家口美智子先生(外国語教育系)・三橋了爾先生(GS 教育系) から遠隔授業実践の報告があった。	135 名	総合メディア基盤センター共催	
		FD 研修会「著作権について」	7月10日	オンライン授業, オンデマンド授業で必要とされる著作権処理についての説明を行った。	90 名	総合メディア基盤センター共催	

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SG U
国際基幹 教育院 高等教育 開発・支援部 門		第1回高等教育開発・支援部門セミナー「開かれた大学とキャリア教育」	7月17日	高須正和氏（スイッチサイエンス）、秋田純一氏（金沢大学理工学域教授）から、ビジネスを通じた学び、ビジネスと研究活動の違い、コミュニティ・リーダーとしての教員、アウトプット・ネットワーキングのためのスキル、副業が広げるキャリアについての話題提供があり、それらに対してディスカッションを行った。	51名		
		FD研修会「Webexの使い方、ハイブリッド型授業、授業配信機材の使い方」	9月16日	オンライン会議ツールであるWebexの使い方、ハイブリッド型授業構築、授業配信機材の使い方について説明を行った。	133名	総合メディア基盤センター共催	
		第2回高等教育開発・支援部門セミナー「非伝統型大学教員への道は一日にして成らず」	9月30日	『大学教授が、「研究だけ」していると思ったら、大間違いだ!』（イースト・プレス）を出版された千葉大学工学部名誉教授斎藤恭一先生をお迎えし、校巡り、新入生合宿、理系研究室の運営、文章指導、英語指導、熱血授業、ベスト・ティーチャー賞、コスト意識、同僚との切磋琢磨、限界突破の方法など、38年間にわたる大学でのご経験についてのお話をうかがい、それらに基づき参加者でのディスカッションを行った。	43名		
		FD研修会「ハイブリッド授業の設定とヒント」	11月20日	教室に配置された機器を通して、遠隔授業がどのように学生に見えるのかを体験するとともに、機器の効果的活用についての議論を行った。	7名（対面4、オンライン3）		
		FD研修会「テレビ会議システムでのブレイクアウトセッションの活用」	12月7日	テレビ会議システムでのブレイクアウトセッションの活用についての説明を行った。	40名		

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

部局名	実施回数	名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SG U
国際基幹 教育院 高等教育 開発・支援部 門		第3回高等教育開発・支援部門セミナー「製品企画開発の最前線におけるデザイン思考」	1月20日	金沢美術工芸大学から安島諭先生をお迎えし、デザイン分野における開発の実際、現在、現場で起こりつつある変化、異分野との融合について報告いただき、その内容をもとにディスカッションを行った。	38名		
		国際基幹教育院スキルアップセンターFD研修会	3月16日	GS教育系、外国語教育系、高等教育開発・支援系の授業実践やFD活動について報告を行うとともに、スキルアップセンターとしての来年度に向けての活動を確認した。	32名		
総合メディア 基盤センター	1	データサイエンス 基礎授業研修会	2月18日	令和2年度のデータサイエンス基礎の総合メディア基盤センター担当分の総括と令和3年度のデータサイエンス基礎についての講習	8名		
国際機構	2	国際機構FD研修会「Zoomを使っ ての授業の方法」	4月7日	Zoomの使用法及びZoomを使っ ての授業展開の方法について学習し 議論した。	教務委員 長、教務委 員(2 名)、その 他19人		
		オンライン相互授 業見学(FD強化 週間)	3月2日～3 月8日	総合日本語プログラムの オンデマンド教材を見学 希望者に開示し、担当者 と意見交換した。	教務委員 長、教務委 員(2 名)、その 他14人		

2-6 照会事項6 コース・専攻単位での教育改善活動

2-5以外にコース単位での教育改善活動

部局名	該当するものに☑	左欄の具体的な内容
法学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	コース毎に成績評価基準を確認し、問題意識を共有した。
経済学類	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	教務委員会と合同で、オンライン授業に伴う学生側の問題点を知るために、学生と教員との懇談会をオンラインで実施した。
学校教育学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	学校教育学類でのFD研修会および全学でのFD報告会に向けた、学類独自の取り組みを検証するため、実習、実技、実験授業を遠隔授業にて行った教員が定期的に集まり、意見交換を行う場をFD委員会にて提供した。特に音楽教育や美術教育、理科教育専修を中心に今年度は実践報告等を対面＋オンラインにて行ったが、次年度以降は家政教育や保健体育専修も加えて、更なる従業改善に向けた意見交換を行う予定である。
地域創造学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	定期的にコース会議を開催し、その時々において、授業に対する学生の反応について、意見交換を行い、授業改善につなげている。本年度は、特に、新型コロナウイルス感染症流行に伴い実施した遠隔授業について、学生が抱えがちな問題に焦点を当て、意見交換及び改善の検討を各コースで行った。
国際学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	学類会議、コース会議等の場を利用して、授業改善についての意見交換を恒常的に行っている
数物科学類 数物科学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	定期的に開催している教員会議において、アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)等の制度を周知して積極的な活用を促した。
物質化学類 物質化学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	物質化学類および専攻では独自に以下のFD活動を行っている。 1. 卒業研究の自己評価を学生および教員の立場から年1回実施し、卒業研究の充実に配慮している。 2. 定例開催の教員会議やFD研修会において、講義の進め方に関する定期的な意見交換を行っている。

2-6 照会事項6 コース・専攻単位での教育改善活動

部局名	該当するものに☑	左欄の具体的な内容
電子情報通信学類 (電子情報学類) 電子情報科学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☒ その他	学類内でFDに関わる情報共有を目的とする学類及び専攻科教員が参加できるLMSのコースを作成し、FD研修会や授業参観、アンケート結果の情報共有などを行う場を用意した。
地球社会基盤学類 (環境デザイン学類) 環境デザイン学専攻	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☒ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	卒業者に対するアンケート結果をもとに、優秀教育教員賞1名を顕彰した。
医学類	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	・11月に学生(各学年代表2名)参加のカリキュラム委員会を実施。講義・実習における意見交換の場を設けた。 ・3月に各学年から3～4名を抽出しフォーカス・グループ・インタビューを実施した。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻、 薬学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	薬学系の基幹委員会である教育委員会をはじめとする教育・教務系各委員会において、適宜意見交換を行った。 なお、コロナ禍にあつて、例年教員を派遣している学外の各種研修会等のほとんどは非開催となったため、翌年度以降に再び派遣を行うこととした。
保健学類 保健学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☒ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	今年度から、医学系FD研修会(毎月第1月曜日)の情報を保健学系内の全教員に配信し、研修会参加を促進した。保健学系内の参加者は毎回10～20名であった。同様に、保健学類FD研修会の情報を医学系教員にも配信した。また、本学類では学生アンケートをもとに優秀教育教員を、また研究実績・大型外部資金獲得等をもとに優秀研究教員を選出し表彰した。
先進予防医学研究科	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	定期開催の研究科教育委員会、医学FD研修会において、教育方法ならびに教育内容の改善にかかわる意見交換を適宜行った。
新学術創成研究科	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	・各専攻において、学位論文審査基準の検討・制定を行った。 ・ナノ生命科学選考において、博士論文基礎力審査の実施方法について検討した。

2-6 照会事項6 コース・専攻単位での教育改善活動

部局名	該当するものに☑	左欄の具体的な内容
法学研究科 (修士課程・ 専門職学位課程)	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	【法務専攻】 筑波大学法科大学院との合同FD(2020年9月24日, オンライン) オンライン下の授業実践 一橋大学法科大学院との合同FD(2020年11月5日, オンライン) コロナ感染拡大下での授業実践 法学類・法務専攻FD合同研修会(2020年12月3日) ハイブリッド型授業の実践方法について 法科大学院外部評価(2021年3月1日, オンライン) 千葉大学法科大学院との合同FD(2021年3月23日, オンライン)
教職実践研究科	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	大学院学生への個別指導は非常に手厚く、授業に関しての意見聴取も常に各教員が行っている。それらをもとに、毎週開催の「教務・FD委員会」の中で、授業及び学生についての意見交流を行う時間を組み込んでいる。また、今年度前期は対面授業ができなかったため、新入生を対象に、前期の間継続して、WebEx等にて毎週1時間のオリエンテーションを開催し、大学院学生の学業面等における質問等にもその場で対応、共有してきた。
国際基幹教育院 GS教育部門	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☒ その他	「スキルアップセンターとの連携を図る」 上述のFD研修会はスキルアップセンターとの連携のもとで実施された。
国際基幹教育院 外国語教育部門	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	オンラインFD活動や企画部会の会議で、コロナ禍の授業の問題点について教員間で意見交換を行った。また、学生からのメールや授業評価アンケートのコメントで問題点をシェアした。また、問題がある場合はそれぞれの企画部会で話し合いを持った。
国際基幹教育院 高等教育開発・ 支援部門	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	授業実施前に、部門会議において、「大学・学問論」の運営状況についての意見交換を複数回行った。
国際機構	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	従来通り、学期の開始前及び終了後に、講師会を開催している。総合日本語プログラムの講師会については、担当者(教務委員、教務委員長を含む)が全員参加し、授業開始前にはその学期の授業をする際の注意点を話し合う。授業終了後には問題点や反省点を話し合い、次学期に備えている。

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

令和2年度FD活動の自己評価及び総評

評価	4: 大いに評価できる,	3: 概ね評価できる,	2: あまり評価できない,	1: ほとんど評価できない
----	--------------	-------------	---------------	---------------

部局名	自己評価	総評
人文学類	3	授業評価アンケート, 卒業者アンケート, 教員相互の授業参観・授業評価, 成績評価基準等の作成・検証, FD 研修会については, コロナ禍の影響があったために当初計画を縮小した部分もあるが, ほぼ着実に実施している。シラバスの点検については教務委員会の業務の一環として実施されているが, FD 委員会との協働が必ずしも十分とは言えない。また, ALA (アクティブ・ラーニング・アドバイザー) の専門科目での導入については今年度も教員に活用を促したが1科目にとどまった。成績評価に関しては評価基準をシラバスに明記するよう全教員に促しており, またその点検も教務委員会主導で行っているが, やはり FD 委員会との協働体制が十分とは言えないところがある。成績評価分布については調査結果を踏まえて令和3年度中に学類教員で情報を共有し検討する予定であり, また, 令和2年度授業評価アンケート結果も令和元年度分に引き続き学類Web ページ上で公開する予定である。
法学類	4	オンライン授業の方法やアシスタント学生との連携, 大学院法務専攻との協調などについて三回にわたって, FD 研修会を行った。シラバスのチェックを徹底し, 学生に対して授業内容を予め報せ, 計画的な学習を促すことの重要性について問題意識を共有した。
経済学類	4	2回のFD研修会のほかに, 以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 コロナ禍のなかで適切な授業運営ができるような体制を整え, さまざまな遠隔授業の方法について情報交換ができるようになった。また, 教員と学生との懇談会を設けたことにより, 学生側の問題点が明らかになり, 教員側からの適切な指導が可能になった。以上, オンライン授業に伴う問題点を浮き彫りにし, その技術の習得と改善に積極的に取り組み「4: 大いに評価できる」と自己評価した。
学校教育学類	3	令和2年度は, 年間を通しコロナウイルス感染拡大の影響を受け, 当初の計画から大きく変更せざるを得ない状況となったため, FD 研修会は当初の計画を下回る1回の実施, FD 研究授業等の開催は見送った。しかし, 縮小しながらも附属学校園連携 GP による学校インターンシップの開始, なるためノートのオンライン化を検討するなど, コロナ禍でできる最善の方策を模索しすることで, 次年度に繋がるFD活動の方策を検討した。このように次年度以降にも対応できる, 第3波に備えた, オンライン化を視野に入れた活動改善計画を行うことができたことから, 「3: 概ね評価できる」と自己評価

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		した。
地域創造学類	3	新型コロナウイルスの影響で異例の状況であり、当初計画通りに進めることは困難であったが、その限界状況の中で、授業評価アンケート、卒業者アンケート、FD 研修会、授業英語化の検討などを実施したことは評価できると考える。令和2年度に取り残したことについては、令和3年度に必ず実施することとしたい。シラバスについては、教務学生生活委員会が担当して、記載の周知、点検を行っており、その改善につながっているが、FD 委員会として十分に関与できなかったことが反省点である。全体的に、教務学生生活委員会との協働が必要であることが多く、次年度以降、その体制作りに取り組むこととする。
国際学類	4	偶然とはいえコロナ禍を契機とし、学類の教育システムについての再検討を徹底的に行う機会を得たことは、不幸中の幸いである。この再検討を通じて、「予習・復習」の講義プロセスの中での位置づけが以前より明確となるとともに、ループリック作成の浸透等の成績評価基準の客観化が進展した。
数物科学類 数物科学専攻	3	コロナ禍の中でオンライン授業を行わざるを得ない状況に対して、FD を通して、機材・ソフトウェアの操作方法や遠隔講義のコツなどの情報交換を含め、非常に活発な議論を行った。ALA も実施に制約がある中でも継続的な申請が行われ、制度の活用がなされている。
物質化学類 物質化学専攻	3	物質化学類では FD 研修会において、教員による自身の授業への取り組みの紹介を継続的にやっている。今年度はこれに加えてオンライン講義に関する意見交換を行い、優れた点、問題点を全体で共有するなど、状況に応じた教育方法改善に向けて十分な努力を行った。あわせて、月例会議における授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続することで、FD 活動への意識の共有化や改善に取り組んできた。
機械工学類 機械科学専攻	4	コロナ禍でオンライン授業となったが、教務委員と FD 委員が主導して 4 月上旬に全ての講義を完全オンライン化とする方針を決定し、その後、オンライン講義に役立つ情報を所属教員に発信し、オンライン講義の準備をアシストした。また、Q1 の授業評価アンケートを前年度のアンケートと比較を行い、Q2 以降のオンライン授業の改善に努めた。その後、機械工学類に所属する各教員が習得したでオンライン講義テクニックを共有し、更にはフロンティア工学類、電子情報通信学類の3学類間での共有に発展していき、最終的には3学類のオンライン講義テクニックは理工学域全体にも公開され、理工全体のオンライン講義の授業方法改善に貢献した。また、全科目のシラバス内容に対する徹底的なチェックを行ったことも評価できると判断する。
フロンティア工学類	4	コロナ禍の状況が刻々と変化する上に、上層部からの指示が二転三転して、混乱をさらに深めている状況の中で、各教員は様々な工夫

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		をして困難に立ち向かっている。また、これらの取り組みを情報収集し、構成員で共有する活動も行われており、今後の組織的な取り組みの礎となると期待できる。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	3	コロナ禍によるオンライン授業やハイフレックス授業に対応できるよう授業スキル向上に向け、学類内で教育改善に向けた取組ができるよう LMS を活用した仕組みを構築できた。これにより、授業スキル向上に向けた情報共有、モデル授業の参観などができるようになった。また、三学類内ではオンライン授業ティップス（好事例等）を収集し、その共有を行い、授業改善に役立てた。好評のため理工学域内に共有を拡大した。他方、授業評価アンケート結果などの活用などに関しては、活用方法の検討にとどまり、具体的実施には至らなかった。来期の課題である。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	3	令和2年度は、シラバス点検による改善、FD研修によるオンライン講義とその展開法の学習、卒業・修了者アンケート調査の実施などにより、FD活動として充実した内容となっており、自己評価として概ね評価できる。一方、コロナ禍による講義オンライン化などにより、教員相互の講義参観など一部実施できなかったものがある。
生命理工学類 自然システム学専攻	3	シラバスを点検することにより、内容の充実を図った。 令和2年度は、授業が急遽オンラインになり、当初の計画通り授業を行うことができなかった。そのため、第3クォーターの初めに学類FD研修会を開催し、オンライン授業の問題点や改善方法を話し合うための機会を設けた。その後も教員間で継続的に話し合い、情報交換を行なった。 さらに、このような状況下での学生の学習意欲を知るには、いつもの年度にも増して授業評価アンケートが重要であるため、回収率の向上に努めた。
医学類	4	・国際基幹教育院との共催でアクティブ・ラーニングを主としたFD講習会を定期的に実施することができた。COVID19対応のため遠隔会議システムを用いた。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まっている。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われている。 ・カリキュラム評価委員会を3回開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行い、カリキュラムの構築・改善（PDCAサイクル）の体制を確立することが出来た。
薬学類・創薬科学類 創薬科学専攻	3	金沢大学の方針に従ったFD活動を今年度も実施した。薬学系では毎年、全教員を対象とする薬学系FD研修会を開催するとともに、

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
薬学専攻		新任教員を対象とした研修会を独自に開催することで、教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を行っている。本年度も12月にFD研修会を開催し、公務欠席者を除けば、100%の出席率であった。本年度のFD研修会においては、「On-Line研究、教育の進め方・半年間の経験より学ぶ」をテーマに、教員間で討論を行った。
保健学類 保健学専攻	4	2回の本学類FD研修会を通して、オンラインによるハイブリッド講義等に関する情報を提供し、アフターコロナを見据えた新たな講義形式等の提案ができたものとする。またアクティブ・ラーニングの取り組みについては、オンラインによる高大接続プログラム・講義に取り組み、昨年と同様に5専攻横断型の講義の充実に繋がったものとする。学生アンケートにおいては、COVID-19感染症の影響で回答率は低いものとなったが、今後の回答率向上のための対策として、ミニッツペーパー等の代替方法の提案を含め、オンラインを利用した学生の理解度の確認、さらに個々の対応・学習ニーズの把握に努めたい。また来年度も医学系FD研修会参加の促進、優秀教員の選出・表彰は継続する。
人間社会環境研究科	3	教員に対する遠隔授業と研究指導についてのアンケート、修了者アンケート、授業評価アンケート及び懇談会を行い、問題点を明確化し、これに対応する施策・FD研修会を行った。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	3	国際基幹教育院との共催により、アクティブ・ラーニングを主としたFD講習会を定期的に実施することができた(医学類との合同開催)研修会自体を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、遠隔会議システムを用いた開催とした。 授業評価アンケートについては、今後、対面及びオンライン講義双方において、Webによる効率的なアンケート実施を目指す。
先進予防医学研究科	3	昨年度に引き続き、3大学共用のVOD教材の英語化を進め、残り1科目まで進めた。また、シラバス点検により、主にアクティブ・ラーニングや英語対応に関する記載内容の改善を諮った。医学系FD研修会及び先進予防医学研究科3大学合同FD講演会において、新型コロナウイルス感染症に関する知見やオンライン授業に対応した教育技術等を教員間で共有し、教育方法の改善を行うことができた。
新学術創成研究科	3	令和2年度に設置した融合科学共同専攻(博士後期課程)、ナノ生命科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)の教育内容及び実施方法について、教員間で積極的に議論・検討を行うことができた。
法学研究科	4	組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている。
教職実践研究科	4	年度当初より、テーマに沿ったFD計画を立て、それに沿ったFD活動を実施してきた。教員・大学院学生への公開授業も実施するとともに、一部遠隔での活動も含めながら、ラウンドテーブル形式も取り入れ、活発な意見交換も展開した。今年度前期は対面授業がで

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		きなかったため、新入生を対象に、前期の間継続して、WebEx 等にて毎週1時間のオリエンテーションを開催し、大学院学生の学業面等における質問等にその場で対応、共有し、FD 実践も行ってきた。
国際基幹教育院 GS 教育部門	4	令和2年度は年度当初より新型コロナウイルス問題によって授業実施状況が劇的に変わり、大学の授業方法に全く慣れていない新規入学生を対象とする共通教育 GS 科目の実施は混迷を極めた。そのようななか、オンライン形式の FD 研修会を年度内に3回実施した他、授業実施方法や授業における不安の聞き取りアンケートなど、メールによる調査を前期に3回、後期に2回実施するなど、困難な状況下での FD 実施に最善を尽くした。特にオンライン・アクティブ・ラーニングの実現やオンライン動画教材を用いた英語授業の運用ノウハウについて有意義な情報提供もあり、次年度も簡単には収束しないと予想されるコロナ下での授業実施にむけて着実に前進できる FD 活動であったと考え、自己評価を「4」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	4	令和2年度は外国語教育部門のすべての教育企画部（EAP 教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部）において、充実した FD 活動を行った。部門共通のテーマとして、オンライン授業の在り方、問題点及び改善点をとり上げ、研究会及び日本国内外の研究者による講演会を複数開催し、オンライン授業における教材作成ツールの多様化、オンライン授業と対面授業による教授法及び学びのスタイルの変化に資する授業実践事例を共有し、ポストコロナ時代における言語教育のありようについて検討を重ねた。これらは国際基幹教育院 FD 研修会でも報告され、今後の授業担当者の授業改善が期待される。 今年度は、オンラインイベントを通して、部門内の研究会を予定通りに開催し、また学内の他部局・学類、学外・海外の教員や研究の交流・連携・事例共有も行った。その中でも特に、EAP 教育企画部では金沢大学の英語教育と専門教育をつなぐ取り組みに力を入れ、SGU 英語教育に大いに貢献した。また、国際試験教育企画部が学生の EMI（英語による授業）受講能力や効果的な EMI 授業形態についても詳細な分析と検討を行った。初習言語教育企画部では、研究会を通して、遠隔授業を行なった際生じた諸問題（例えば、学生間の学力格差が例年より顕著である点、ゼロから学修する初習言語科目におけるオンライン教育の難しさ、同時双方向型授業が可能となる環境整備の必要性、LMS に関するより一層の改善など）を把握検討し、また、大学内での支援組織の連携（高等教育、ICT 教育推進室など）とも情報交換を行い、オンライン教材作成・テスト作成、WebClass 使用方法などのアドバイスを受けて、今後さらなる改善を図ることに努めた。また、初習言語教育企画部では各言語の特徴を踏まえた教材開発及びオンライン授業の経験を生かした反転授業の促進に努めた。

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		今後も外国語教育系・部門では、今後オンラインスタイルと従来の対面形式を併用・活用し、FD活動をより一層活発に行い、多くの教員・研究者と共有する機会を増やす努力をしていきたい。
国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	4	部門としてだけでなく、スキルアップセンター、各教員個人として全学及び学域・学類等のFD支援を行っており、活動としては優れていると評価出来る。ただし、その評価の真正性を担保するための検証の仕組みが確定していないことは課題である。
総合メディア基盤センター	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分については、slack等を用いて授業改善に役立てることができたことと、令和3年度に向けてセンター教員全員で講習ができたので、概ね評価できる。
国際機構	3	新型コロナウイルスのため、従来のような形でのFD活動が十分行われたとは考えないが、年度を通じて創意工夫し、出来る形での活動を行った。また遠隔方式での授業に合わせて成績評価方法も改善した。

3 各部局等の BSD 活動



3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
学務部 (学務課)	7	北陸地区国立大学 連合協議会学生教育系専門委員会	8月31日	オンライン及び対面で開催した北陸地区国立大学4大学での遠隔授業導入・実施するための課題等の意見交換会に教務業務の充実・発展を図るため、職員も出席した。	3名	全体8名
		令和2年度第3回 全学FD研修会 「FD活動報告書 成果発表会」	10月30日	学類等における組織的FDの取組事例に関するFD研修会に、教務系職員として資質の向上を図るため出席した。	4名	全体67名
		オンラインFD研修会「データサイエンス教育」	12月7日	オンラインで開催した本学及び北陸地区高等教育機関の学生・教職員対象の「データサイエンス教育のカリキュラム」等に関する講演会に、教務業務の充実・発展を図るため出席した。	3名	全体64名
(新学術 創成研究 科係)		融合科学共同専攻 FD研修会	3月11日	遠隔講義の充実、社会人学生の受入れ、コロナ禍を踏まえた今年度の反省をテーマとした、金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学の専任教員による意見交換	2名	
		ナノ生命科学専攻 FD研修会	1月7日	国際基幹教育院の講師による、オンラインツールを活用した対面授業の設計を行うために必要な基礎的知識と技術に関する講演及び出席者との意見交換	1名	
(学生支援課)		自死防止のための 研修会	12月16日	大学の喫緊の課題である学生の自死防止に取り組むため、コロナ禍において増加及び深刻化する学生相談への対応状況等についての講演聴講を通して学ぶ。	200名	講師：保健管理センター 足立由美准教授
(基幹教育支援課)		学生相談担当者研修会	3月25日 (掲載日)	なんでも相談室の基本方針、ハラスメント相談への対応、相談を受ける時の基本的な態度、共通教育カリキュラムや履修登録の方法等の説明をオンデマンドで実施した。	44名	
人間社会 系 事務部 学生課	1	人間社会学域FD 研修会	10月27日	人間社会学域の教員とともに①対面授業＋同時配信双方向型授業を行うための同時配信用備品の使用方法及び②令和2年度前期に実施した遠隔授業アンケート（国際学類生）の解説を聴講し、新型コロナウイルス感染症流行に伴い急速に広まった遠隔（オンライン）授業の課題等を共有した。	2名	

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
理工系事務部 学生課	1	北陸信越工学教育協会産学連携教育フォーラム（理工学域・自然科学研究科 第12回FDシンポジウム）	3月17日	理工学教育に求められるグローバル化と英語化対応について、学界及び産業界からの意見を伺い、現在及びこれからの大学・高専理工系におけるグローバル人材養成と英語による専門教育の在り方について議論する。また、新型コロナウイルス禍がこれらの人材養成や英語による専門教育に与えた影響や今後の新しい人材養成の方策を議論する。（講演4テーマ）Webex による同時配信も実施するハイブリッド型の開催	6名	北陸信越工学教育協会 石川支部と 金沢大学理工・教育方法改善委員会の共催
医薬保健系事務部	4	医学系 FD 研修会	1月18日	学生のメンタルヘルスケア	2名	
		医学系 FD 研修会	2月8日	留学生への支援	1名	
医薬保健系事務部 保健学支援課		保健学系 令和2年度第1回FD研修会	11月4日	松原孝祐教授、板谷智也助教による「オンライン講義におけるグループディスカッションの試み」に関する講演	5名	
		保健学系 令和2年度第2回FD研修会	2月3日	杉森公一准教授、板谷智也助教による「コロナ禍の講義における私の工夫」に関する講演	4名	
国際部 留学企画課	8	JAFSA 特別 Webinar	6月24日	COVID-19の影響を受ける国際高等教育の現在と今後等について説明	4名	特定非営利活動法人 JAFSA(国際教育交流協議会)主催
		国際教育夏季研究大会	9月2日～4日	新型コロナウイルス禍と国際教育の将来像について説明	3名	一般社団法人国際教育研究コンソーシアム主催
		国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会	9月8日	留学生受け入れ政策をめぐる近年の動向等について説明	1名	東京大学主催
		Japan-Australia University Staff Training Program 2020	10月19日 11月4日、11日、18日	日豪大学間の情報共有及び連携強化を強化、日本の国立大学の国際化推進	2名	国立大学協会主催

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
国際部 留学企画課		入国管理行政・申請取次制度講習会	11月26日	入国管理行政・申請取次制度等について説明	1名	石川地域留学生交流推進会議主催
		大学国際教育交流・派遣留学管理者向け危機管理オンラインセミナー	12月7日	コロナ時代における人の往来再開に向けた政府の取り組み等について説明	2名	日本アイラック主催
		2021年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会	2月8日	COVID-19 禍の留学生受け入れ状況と今後について説明	2名	大阪大学主催
		海外安全対策セミナー	2月25日	教育機関関係者向け海外安全対策説明	1名	外務省主催

3-1 照会事項1 BSD研修会の実施状況

(参考)

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
事務局	令和2年度国立大学法人金沢大学初任者研修	事務・技術系の初任職員に対して、本学の基本的事項について講義、見学体験等の多様なプログラムを提供し、「金沢大学職員」としての基礎的な能力を身につけさせることにより、今後の大学事務執行の円滑化を図る。	17名	
	情報システム統一研修（令和2年度第1/四半期） 第1回情報システム入門		4名	総務省
	情報システム統一研修（令和2年度第2/四半期） 第2回電子政府基礎		1名	総務省
	令和2年度東海・北陸地区国立大学法人等人事担当者（係長級以下）研修	東海・北陸地区の国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関の人事担当者（係長級以下）に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	4名	名古屋大学
	令和2年度北陸地区国立大学法人等初任者研修	新たに採用された事務系・技術系職員に対し、国立大学法人等事務に関する基礎的知識を修得させ、事務能率の増進を図ることを目的とする。	16名	
	文書作成力向上研修（基礎編）	文書とは情報伝達のための重要な手段であることから、その作成についての基本原則やルールを学び、読み手にとって分かりやすく、かつ、適切な文書を作成する能力の向上を図る。	4名	石川県
	令和2年度金沢大学ICT研修（応用研修）	金沢大学の事務職員及び技術職員が担う業務にICTを活用することで、業務効率化と生産性向上を実現するため、現場においてこれを担うことができる人材を育成する。 ICT研修（基礎→応用→活用）を通じて段階的に、実際の業務に導入するために必要な知識の習得と、思考力の養成を図る。	49名	
	甲種防火管理新規講習会	消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に定める防火管理者として必要な資格を取得させることを目的とする	1名	金沢市消防局
	第58回政府関係法人会計事務職員研修	政府関係法人の会計事務に従事する職員に対し、予算決算及び会計事務に関する必要な知識を修得させることを目的とする。	1名	財務省会計センター
	令和2年度金沢大学職員ビジネス英語研修		25名	
	情報システム統一研修（令和2年度第3/四半期） 第3回情報セキュリティ基礎		1名	総務省
	アンガーマネジメント研修	怒りの感情と上手く付き合い、ストレスの軽減や円滑なコミュニケーションを図る。	3名	石川県
	コーチングスキル向上研修	部下や後輩の育成にあたり、主体的に行動することができる職員を育成するためのコ	2名	石川県

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	コミュニケーション方法をはじめとしたコーチングのスキルについて習得する。		
令和2年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修	北陸地区国立大学法人等の係長・専門職員としての心構え及び職務遂行に必要な基本的、一般的知識を習得させるとともに、係長・専門職員としての能力及び識見を確立させ、国立大学法人等の管理運営の重要な担い手としての資質向上を図ることを目的とする。	14名	富山大学
ファシリテーションスキル向上研修	会議などの集団活動を円滑に進める方法を学び、個々の力を最大限に引き出しながら、組織として効率よく質の高い成果をあげるために必要なスキルについて学ぶ。	3名	石川県
令和2年度 北陸地区国立大学法人等マネジメント研修	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	13名	
説明力向上研修（実践編）	県民や上司などに対して、正確で分かりやすく説明するために必要なスキルやコツなどを実践的な演習を通して習得する。	3名	石川県
令和2年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修	北陸地区国立大学法人等の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	11名	一般社団法人国立大学協会東海・北陸支部及び国立大学法人福井大学
令和2年度金沢大学ICT研修（第2回）	金沢大学の事務職員及び技術職員が担う業務にICTを活用することで、業務効率化と生産性向上を実現するため、現場においてこれを担うことができる人材を育成する。 ICT研修（基礎→応用→活用）を通じて段階的に、実際の業務に導入するために必要な知識の習得と、思考力の養成を図る。	147名	
令和2年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修	北陸地区の国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員としての資質向上を図ることを目的とする。	10名	一般社団法人国立大学協会東海・北陸地区支部及び北陸地区の国立大学法人等機関
文書作成力向上研修（応用編）	事例演習を通して、文書に説得力を持たせる構成方法を学ぶとともに多彩な表現方法に触れ、自らの文書表現力をさらに高める。	1名	石川県
2020年度「在米大学職員研究会」	米国滞在中の職員及び将来北米研修を考えている大学職員の意識向上や動機付け、今後の研修に向けたモチベーション向上等につなげていくことを目的とする。	1名	（独）日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター
令和2年度トップマネジメント経験研修	事務系の初任職員に対して、大学の運営に係る重要事項が、実際にどのように決定されていくのか、また、大学のトップが、日々どのように思考し、どのような活動を行っているのか、身近に経験させることにより、	13名	

3-1 照会事項1 BSD研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
		大学経営への関心を深め、将来、大学経営に参画できる人材を育成する。		
	令和2年度福井大学マニュアル作成基本研修	人事異動により、異動後の部署でもスムーズかつ効率良く業務を進めるためには、マニュアルの作成及び共有が欠かせない。「働き方改革」により業務効率の向上が求められる現在、業務の「見える化」やマニュアルの統一書式作成等の取組みが大学組織においても重要と考える。 本研修では、「マニュアルの作成がなぜ業務効率化に有用か」について理解するとともに、職員の数だけマニュアルの種類が存在している、マニュアルの内容にバラつきが存在している、作成した後のメンテナンスが逐次行われていない等の課題を解決すべく、「マニュアルの一般的な合格ライン」についても理解する。また、非定型的業務におけるマニュアル化のコツについても理解する。	1名	福井大学
	データの見方・活かし方研修	ビッグデータをはじめとする統計データ等を理解・分析する力を養い、その活用方法を習得する。	1名	石川県
	2020年度国立大学法人等若手職員勉強会	国立大学等の継続的な発展に貢献する若手職員の力量向上。	2名	一般社団法人国立大学協会
	ネゴシエーションスキル（交渉力）向上研修	窓口などの渉外業務を遂行する上で必要となる実践的な交渉力の向上を図る。	3人	石川県
	ワンペーパー資料作成研修	様々な情報を図解等を用いて整理し、ワンペーパーにまとめるスキルを修得する。	4名	石川県
	令和2年度国立大学法人金沢大学人事評価研修（評価者研修）	人事評価制度を活用することにより、本学職員の能力開発、意欲向上に寄与するため、対象者に本制度の意義や適切な目標設定等について理解させるとともに、評価者に共通の尺度や評価眼を養成し、公正・公平な評価を行うためのスキルとフィードバックのためのスキルを習得させることを目的とする。	27名	

[学務部]

○学務部学生支援課

KUGS サポートネットワーク本部会議及び自死防止専門委員会を開催し、各部局における現状の共有や情報交換を行った。

また、保健管理センターと連携し、自死の懸念及びその他個別に対応が必要な学生の支援を行っている。

○学務部入試課

今年度から新たに導入の KUGS 特別入試等の目的及び入試実施の留意事項等について教員対象説明会を令和2年11月16日に開催した。

令和3年1月6日「令和3年度金沢大学入学者選抜試験事務担当者打合せ会」を開催し、入試担当者63名が参加した。

主体性等評価の実施方法について令和3年1月22日に説明会を開催し、対面・オンラインで約140名が参加した。

[理工系事務部学生課]

・令和2年10月30日開催「第3回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」一学類等における組織的FDの取組事例」全学FD委員会、国際基幹教育院スキルアップセンターの共催）に理工系事務部学生課から担当職員2名が出席し、他学域のFD活動等について情報共有した。

・令和2年12月16日開催「学生の自死防止のための研修会」（主催：金沢大学学生自殺防止専門委員会／共催：全学FD委員会）に理工系事務部学生課から担当職員2名が参加し、学生の自殺防止対策について学んだ。

[医薬保健系事務部薬学・がん研支援課]

当課独自でのBSD活動は実施していないものの、必要に応じて総務部職員課、学務部、情報部等の主催するBSDに参加する形をとっているほか、「研修」という形式にまでは至らないものの、各自業務上の必要に応じて、専門部署や教員等にアドバイスを求め、その内容を業務の参考とし、部署内での共有に努めている。また、職務系の異なる係から成る課であることを生かし、隣接業務に係る情報共有を密に行っている。

3-3 照会事項3 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

令和2年度 BSD 活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

評価 4：大いに評価できる, 3：概ね評価できる, 2：あまり評価できない,
1：ほとんど評価できない

部局名	自己評価	総評	来年度の改善取組予定
学務部 学務課	3	今年度は、コロナ禍のため外部機関が主催する研修会への参加は少なかったが、オンラインで実施した委員会や講演会などに参加することで、直面する課題や必要な知識等について、各大学の取組や考え方に関する意見交換を通じて本学の対応の参考となった。	
学務部学務課新学 術創成研究科係	3	教員とともに、カリキュラムの確認や改善を目的とした FD 研修会や打合せ等に参加し、教員の FD 活動を支援する活動を行うことができた。設置後間もない研究科であり、引き続きカリキュラムの検討・改善が必要であることから、来年度以降も同様の取組みを継続して行く予定である。	
学務部 学生支援課	3	指導教員及びアドバイザー教員等による日頃の指導や、関係部署、関係教職員の協力に加え、自死防止のための研修会を遠隔対応でも行ったことにより、コロナ禍における懸念のある学生に対する教職員の理解がさらに深まり、学生支援体制の強化につながった。	自死防止に関する研修会を継続して開催する。
学務部 入試課	3	コロナ禍のため外部機関が主催する研修会は実施されなかったが、入学者選抜試験の事務担当者向けに打合せ会を開催し、大きく変更となった令和3年度入学者選抜業務全般について理解を深めた。また、教員対象に特別選抜に係る説明会及び主体性評価実施説明会を開催した。必要な知識等に対応するための独自研修会の開催について引き続き検討する。	
学務部 基幹教育支援課	3	「学生相談担当者研修会」は、「なんでも相談室」で学生からの相談を受ける教員や学生を対象に開催しているが、相談員となるメンバーが毎年変わるため継続した開催が必要と思われる。	次年度も引き続き対象者に向けて実施する予定である。
人間社会系事務部 学生課	3	今年度は、コロナ禍で遠隔授業（オンライン）をせざるを得ない状況になり、主に教員向けに研究を行ったが、職員が参加することにより、知識や課題を共有することができる貴重な機会であった。一方、職員の参加が少なかったため、課題等については、課内で共有できるようにする。	

3-3 照会事項3 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

部局名	自己評価	総評	来年度の改善取組予定
理工系事務部 学生課	3	コロナ禍におけるFD活動の実施・支援について、次年度の参考となるような知見，経験を得た。	
医薬保健系事務部 学生課	3	コロナ禍のため対面でのFDが実施できず，オンラインとなったが，例年通りの回数を実施することができた。一方で，オンラインのためアンケートの回収率が低下するといった課題があった。	ハイブリッド開催を増やし，対面での研修の機会を増やす
医薬保健系事務部 保健学支援課	3	今年度はFD研修会を2回行い，オンライン授業をはじめとしたコロナ禍における各教員の取り組みについて理解を深めることができた。	
医薬保健系事務部 薬学・がん研支援課	3	「研修」という形式にまでは至らないものの，日常業務の延長上で，各自OJTで専門部署や関係教員等にアドバイスを求め，その内容を業務の参考としており，その内容等について課内での共有に努めている点，課の特徴を生かして隣接業務に係る情報共有を密に行っている点は評価できる。	
国際部留学企画課	3	留学生支援を図るため，担当者説明会，研修会等に積極的に参加した。特に国立大学協会が主催する日豪大学間の連携強化を図る研修に職員を2名参加させ，日豪大学の国際・留学生業務担当職員と情報交換を行い，学生支援に係る能力向上を図った。	

4 資料編

4 - 1

金沢大学 FD 委員会規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1031 号)

(設置)

第 1 条 金沢大学教育企画会議に、国立大学法人金沢大学基幹会議規程第 22 条第 1 項の規定に基づき、金沢大学 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進する事項について審議することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法等の調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育担当理事が指名する学長補佐 1 人
- (2) 各学域を担当する教員から選出された者 各 2 人
- (3) 各研究科を担当する教員から選出された者 各 1 人
- (4) 国際基幹教育院に所属する教員から選出された者 1 人
- (5) 学務部長
- (6) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第 5 条 前条第 1 号から第 4 号及び第 6 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、第 4 条第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第 7 条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 8 条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ等)

第 9 条 委員会に、専門的事項を審議するため、ワーキンググループ等必要な下部組織を置くことができる。

(事務)

第 10 条 委員会の事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

4－2

金沢大学におけるFD活動指針

平成21年3月9日 FD委員会承認
 平成21年4月10日 教育企画会議承認
 平成26年9月12日 教育企画会議改正
 平成28年7月26日 FD委員会改正
 平成29年3月10日 教育企画会議改正

本学は、社会の信頼に応える学士課程並びに大学院課程教育を実現するために、社会的要請に的確に対応し、本学が掲げる教育研究上の目的に根ざした人間を育成することができるように、質の高い教育を実施する責務を負っている。

金沢大学学則第3条において、本学は、教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、自ら授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うことを定めている。もとより、授業の内容及び方法の改善は、各教員や部局等において地道に積み重ねられてきたものであるが、今後は、それらの改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていかなければならない。

本指針に基づき、本学のFD及びSD活動がますます活発となり、一層本学の教育の質の向上及び学生支援の推進に繋がることを期待する。

(目的)

第1 この指針は、金沢大学におけるFD及びSD活動についての基本的事項を定め、授業の内容及び方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員及び部局等のFD及びSD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(定義)

第2 この指針において、「FD」(ファカルティ・ディベロップメント)とは、授業の内容及び方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取組みをいう。

2 この指針において、「SD」(スタッフ・ディベロップメント)とは、教育研究活動等の適切かつ効率的な運営を図るために必要な知識及び技能の習得並びに能力及び資質の向上を図るための教職員の研修等の自発的取組みをいう。

3 この指針において、「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。

- 4 この指針において、「教職員」とは、本学の常勤及び非常勤の教職員をいう。
- 5 この指針において、「部局等」とは、教職員個人を除き、学域・学類（学部及び学科がある場合はそれを含む。）・研究科・センター等、FD活動に関して、組織的取組みを実施する主体をいう。

（教職員及び部局等の責務）

- 第3 本学の教員は、金沢大学学則第3条（自己点検評価及び研修等）及び金沢大学大学院学則第21条（授業の方法等）に基づき、個人として、積極的にFD活動に取り組むとともに、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 2 本学の職員は、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 3 部局等は、教員のFD活動を促進するために、組織的に授業の内容・方法の改善及び学生支援のための取組みや研修の計画を策定するとともに、その実施内容等を点検し、報告書を毎年度作成する。

（FD委員会の業務）

- 第4 FD委員会は、金沢大学FD委員会規程第3条に基づき、本学におけるFD及びBSD活動並びに本指針に関する事項を審議する。
- 2 FD委員会は、全学におけるFD活動に関する状況等を把握するとともに、それらの情報が全学的に共有されるよう努める。
- 3 FD委員会は、部局等の作成した報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（以下、「年度報告書」という。）を作成し、それを教育企画会議に報告する。

（FD委員会委員長による改善の措置等）

- 第5 FD委員会委員長は、部局等のFD活動の改善に必要と認めた場合、FD委員会の議に基づいて、改善のための適切な措置等を講ずるとともに、それを教育企画会議に報告する。

（年度報告書の公開）

- 第6 FD委員会委員長は、年度報告書を公表する。

（部局等の改善に向けての取組み）

- 第7 部局等は、自らFD活動の実施に努めるとともに、その活動内容等について、継続的に改善に努める。
- 2 部局等は、優れたFD活動を行っている教員への表彰や、研修会参加についての証明書発行等の、FD活動推進のための取組みを行うことができる。

（FD活動等への支援）

- 第8 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門は、FD及びBSD活動に対して、必要な支援を行う。

4－3

金沢大学履修規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1079 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 49 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

(授業科目と履修方法)

第 2 条 授業科目は、共通教育科目(「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目をいう。)及び専門教育科目(学域に係る専門の学芸を教授することを目的とする授業科目をいう。)に区分する。

2 履修方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

第 3 条 共通教育科目は、「導入科目」、「G S 科目」、「G S 言語科目」、「基礎科目」、「初習言語科目」及び「自由履修科目」に区分する。

2 専門教育科目は、「学域 G S 科目」、「学域 G S 言語科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」に区分する。

(基幹教育特設プログラム)

第 4 条 特定の分野の学修を目的として、共通教育科目及び各学類が提供する専門教育科目から編成する教育プログラム(以下「基幹教育特設プログラム」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 基幹教育特設プログラムにおいて、所定の単位を修得した者には、共通教育委員会の議を経て、国際基幹教育院長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、国際基幹教育院において別に定める。

(副専攻)

第 5 条 学生が所属する学域、学類並びにコース及び専攻に係る分野以外の分野又は課題に関する教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 副専攻において、所定の単位を修得した者には、当該学生が所属する学域の教育研究会議の議を経て、学域長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、各学域において別に定める。

(教育職員免許状の取得に関する授業科目)

第 6 条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める「教科に関する専門的事項」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」及び「特別支援教育に関する科目」の単位を修得しなければならない。

(受講者の抽選・選抜)

第7条 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講者を選定することがある。

2 前項の授業科目及び受講者の適正人数は、国際基幹教育院及び各学域において指示するものとする。

(履修手続)

第8条 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は国際基幹教育院長に願い出、許可を受けなければならない。

2 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。

3 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。

4 やむを得ない理由により、所定の期間内に履修登録手続を行うことができない場合は、その理由を付して学域長又は国際基幹教育院長に届け出なければならない。

(履修登録の制限)

第9条 各学期又は各クォーターに履修登録できる単位数の上限は、各学域及び国際基幹教育院で別に定める。

(履修許可の取消し)

第10条 履修を許可された後においても、本規程に違反して履修登録したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(単位認定対象資格)

第11条 次に掲げる各号のいずれかに該当する学生は、単位認定を受ける資格がないものとする。

(1) 当該授業科目の履修登録をしていない者

(2) 授業出席回数が国際基幹教育院及び各学域で定める出席すべき授業回数に満たない者

(3) 休学期間が当該授業科目の開講期間と重なる者

(不正行為)

第12条 試験等における不正行為については、金沢大学学生懲戒規程の定めるところによる。

(単位確定時期)

第13条 単位確定の時期は、次の各号に掲げる時期とする。

(1) 前期開講授業科目は、9月末日とし、後期開講授業科目は、3月末日とする。

(2) 前号の規定にかかわらず、卒業者については学位授与の日をもって単位確定の時期とする。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

評語	英訳(証明書)評語	判定	学修達成度
(1) S	AA	合格	90%以上
(2) A	A	合格	80%以上 90%未満
(3) B	B	合格	70%以上 80%未満
(4) C	C	合格	60%以上 70%未満
(5) 合	P: Pass	合格	60%以上
(6) 認定	CF: Certify	合格	60%以上
(7) 不可		不合格	60%未満
(8) 否		不合格	60%未満
(9) 放棄		不合格	

- 2 「合」及び「否」の評語は、一定水準の成績達成を目的とした授業科目において使用するものとする。
- 3 「認定」の評語は、本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において使用するものとする。ただし、単位互換協定書その他により定めがある場合は、この限りでない。
- 4 単位認定を保留とする場合の基準及び保留後の成績評価方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。
- 5 成績通知には、第1項の評語を用いる。
- 6 成績証明書には、判定が合格となった授業科目のみ記載し、第1項の評語を用いる。ただし、認定は「認」と表示する。

(総合成績評価)

第15条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
(1) S	4点
(2) A	3点
(3) B	2点
(4) C	1点
(5) 合	対象外
(6) 認定	対象外
(7) 不可	0点
(8) 否	対象外
(9) 放棄	0点(第14条第2項に規定する評語を用いる科目については対象外)

- 2 単位認定が保留となった授業科目のGPは、0点とする。

3 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$$\text{GPA} = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$$

4 成績証明書には、GPA は明記しない。

5 GPA における保留授業科目は、履修登録した授業科目の単位数の総和に含める。

6 再履修の取扱いについては、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

7 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

(1) 共通教育科目

「導入科目」、「いしかわシティカレッジの他大学提供科目」、「放送大学の授業科目」、「入学前の既修得単位を認定した授業科目」及び「外部試験によって「認定」の評語で単位認定した授業科目」

(2) 前号以外の共通教育科目については、各学域において別に定める。

(3) 専門教育科目については、各学域において別に定める。

(成績評価の疑義申し立て)

第 16 条 成績の評価に対する疑義申し立てについては、「成績評価への疑義申し出に対する対応についての申し合わせ」による。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。

附 則 (抄)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

4-4 金沢大学シラバス様式

4-4

金沢大学シラバス様式

〇〇学域 〇〇学類

科目名[英文名] / Course Title			
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor			
科目ナンバー / Numbering			
時間割番号 / Course Number		科目区分 / Subject distinguished	
講義形態 / Lecture Form		開講学域等 / Faculty	
適正人数 / Number of Proper		開講学期 / Semester	
曜日・時限 / Day・Period		単位数 / Number of Credits	
対象学生 / Target students			
キーワード / KeyWord			
講義室情報 / Lecture room information			
開放科目 / Open account			
備考 / Note			
授業の主題 / Topic			
授業目標 / Objective			
学生の学修目標 / Learning Goal			
学修成果 / Learning Outcomes			
授業概要 / Outline			
授業スケジュール / Lecture Schedule			
評価方法 / Grading Method			
※成績評価: 次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。 「S(達成度90%~100%)」、「A(同80%~90%未満)」、 「B(同70%~80%未満)」、「C(同60%~70%未満)」を合格とし、 「不可(同60%未満)」を不合格とする。(標準評価方法)			
評価の割合 / Grading Rate			
ルーブリック / Rubric			
ルーブリック備考 / Rubric note			
予習に関する指示 / Preparation			
復習に関する指示 / Homework			
教科書 / Text Books			
参考書 / Reference Books			
教科書・参考書補足 / Teaching Materials Note			
オフィスアワー等(学生からの質問への対応方法等) / Consultation Time			
履修条件 / Prerequisites			
適正人数 / Class Size			
受講者調整方法 / Method for adjusting class size			
その他履修上の注意事項や学習上の助言 / Others			
カリキュラムの中の位置づけ / Position of Curriculum			
特記事項 / Special Note			

4-5 令和2年度金沢大学FD委員会名簿

4-5

令和2年度 FD委員会

事務担当:学務部学務課教育推進係

任期2020.4.1～2021.3.31

部 局 等	職 名	氏 名
	学長補佐	片岡 邦重 *
人間社会学域	教授	大村 雅章
	教授	石黒 盛久
理工学域	教授	水野 元博
	教授	下川 智嗣
医薬保健学域	教授	吉田 栄人
	教授	西村 誠次
人間社会環境研究科	准教授	小林 大祐
法学研究科	准教授	稲葉 実香
自然科学研究科	准教授	ジェンキンズ ロバート
医薬保健学総合研究科	教授	塚 正彦
先進予防医学研究科	准教授	山下 竜也
新学術創成研究科	教授	仁宮 一章
教職実践研究科	准教授	鈴木 瞬
国際基幹教育院	教授	吉永 契一郎
	准教授	河内 幾帆
	准教授	杉森 公一
事務局学務部	学務部長	西出 良一

* 委員長



令和2年度
金沢大学FD活動報告書
令和3年7月発行

編集・発行 金沢大学FD委員会
〒920-1192 金沢市角間町
TEL：076-264-5817（学務部学務課）